

HEARTH

2010年度 ミサワホームCSR報告書



本報告書ではさまざまなステークホルダーの方々を対象としているため、できるだけ多くの活動項目をご紹介できるよう編集しています。それぞれの詳細内容は下記のWEBサイトにてご覧ください。また、**WEB**の付してある項目は、WEB版にて、ここをクリックすることで関連サイトにリンクできます。

www.misawa.co.jp/csr/



HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

お客さまをはじめ、多くの人びととの共同作業である住まいづくり。

だからこそミサワホームは、「HEART」すなわち信頼関係を大切にした企業活動に努めています。

「HEART」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。

HEART
HEARTH
EARTH

CSR活動テーマ

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境をはじめ、ミサワホームはあらゆる環境をデザインする企業として、

「EARTH」すなわち地球環境に配慮した企業活動に努めています。

「EARTH」の 카테고리では、その取り組みを詳しくご紹介しています。



EARTH

【HEARTH】 住まいは“巢まい”。鳥の巣がヒナを育てるためにあるように、住まいづくりは元来、子どものためにあるとミサワホームは考えています。社名の「HOME」には、単なる器としての「HOUSE」ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい「HOME」を提供するという創業以来の理念が込められているのです。欧米には「HEARTH&HOME」という言い方があります。「HOME」に「HEARTH(暖炉)」があつてはじめて暖かき我が家になる、という意味ですが、ミサワホームではこの「HEARTH」を、「HEART(心)」と「EARTH(地球)」が一体化した言葉に見立てました。「HEART」は「深く信頼されるミサワホームをめざして」、「EARTH」は「地球にやさしいミサワホームをめざして」という意図を含め、CSR推進活動のテーマとしています。

■会社概要



社 名 ミサワホーム株式会社
(MISAWA HOMES CO.,LTD.)

設立年月日 平成15年8月1日
(旧ミサワホームとしては昭和42年10月1日)

主要事業所

本 社 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

本 館 東京都杉並区高井戸東二丁目4番5号

LACビル 東京都杉並区浜田山三丁目19番11号 LACビル

資 本 金 23,412,999,000円(平成22年3月31日現在)

主 要 事 業 ●建物及び構築物の部材の製造及び販売
●建築、土木、外構、造園その他工事の設計、請負、施工及び監理
●不動産の売買、交換、賃貸、仲介、管理及び鑑定
●建設資材、建設設備機器、建設機械装置、家具及び室内装飾品の設計、製造、施工、販売、賃貸及び輸出入
●高齢者向集合住宅施設の経営並びに当該施設の利用権の販売及び仲介
●介護保険による居宅介護業務他、介護業務関係
●上記事業に関する調査、研究、技術開発、教育及びコンサルタント業務 他

従 業 員 数 680名(平成22年3月31日現在)

■編集方針

ミサワホームでは、2007年度より当社の活動がどのように社会と関わっているかを、さまざまなステークホルダーの方々にご理解いただくためにCSR報告書を発行しています。ミサワホームのCSR活動テーマである「HEARTH」に基づき、前半を「HEART(深く信頼されるミサワホームをめざして)」、後半を「EARTH(地球にやさしいミサワホームをめざして)」という2部構成としています。作成にあたり、環境活動部分は環境省の「環境報告書ガイドライン(2005年版)」を、社会的側面についてはGRI(Global Reporting Initiative)の「GRIガイドライン2006年(第3版)」を参考にしています。

■対象範囲

ミサワホーム株式会社及びミサワホーム工場(木質工場:11工場、木質部品工場:3工場、セラミック工場:1工場)

対象組織 本報告書の対象範囲はミサワホーム株式会社を中心として記載していますが、一部、ミサワホーム工場(15工場)、販売・建設を担うミサワホームディーラーを含むミサワホームグループの活動(ミサワホームグループの一覧についてはP48を参照)についても記載しています。

また、個人の所属・役職名、組織名については発行日現在のものとしています。

対象期間 2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)を基本としています。必要に応じて2009年度以前及び2009年度以降の活動内容も記載しています。

発 行 日 2010年6月(次回発行予定 2011年6月)

■目次

会社概要・編集方針	2
トップコミットメント	3
企業理念	5
経営ビジョン・中期経営計画	6
住まいるりんぐシステム	7
コーポレートガバナンス	8
2009年度CSR活動トピックス	9
HEARTHトップページ	16
お客さまと共に	17
従業員と共に	23
取引先と共に	25
株主と共に	26
社会と共に	28
EARTHトップページ	31
ミサワホームグループの環境への取り組み	32
ミサワホームの環境会計	33
ミサワホームの環境マネジメントシステム	34
ミサワホームの環境への関わり	35
2009年度環境活動の実績と自己評価	37
地球環境と共に	40
ミサワホームグループネットワーク	48

トップコミットメント



良質な社会ストックとなる
住宅の開発と普及に、
今後もグループ一丸となって
取り組んでまいります。

ミサワホーム株式会社
代表取締役社長

竹中 宣雄

『住まいのNO.1ブランド』を目指す中長期経営ビジョン

2009年度の我が国の経済は、政府の経済対策の効果などにより、期の途中から持ち直しに向かいましたが、円高やデフレによる企業収益の減少、雇用・所得環境の悪化など、景気を下押しするリスクを残したまま先行き不透明な状況で推移いたしました。住宅業界においても、住宅ローン減税等の税制措置や太陽光発電システム関連の補助金制度など需要喚起策が打ち出され、期の後半には改善の兆しが見え始めたものの、雇用不安や個人所得の不透明感から消費者購買意欲は高まらず、新設住宅着工戸数は77万戸台に留まるという1964年以来45年ぶりの低水準となりました。このような環境のもと、ミサワホームでは2006年に発表した中長期経営ビジョンの実現に向け、鋭意取り組んでまいりました。このビジョンではコーポレートスローガンである「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質な「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献するための経営理念とステークホルダーごとの行動指針に基づき「お客さま満足度の徹底追求」と「時代をリードする発想力」で『住まいのNO.1ブランド』を目指しています。「QUALITY」「SATISFACTION」「PERFORMANCE」の3つの視点から6つのターゲットを定めていますが、その中でも長期にわたり住み継がれる住まいの実現については、最も重要な課題であると認識しています。

「住まいるりんぐシステム」

「中長期経営ビジョン」を実現するために2008年度をスタートとする3か年の「中期経営計画」を策定し、その骨子のひとつに「事業ポートフォリオの最適化」を掲げています。従来、当社は戸建注文住宅を主力事業としてきましたが、少子高齢化や将来予想されている世帯数の減少など、新築市場の縮小に対応するためには、新築だけではなくリフ



Smile-ring System

ォーム事業はもちろん、既存住宅流通の不動産サポート事業、高齢者介護を含めたライフサポート事業など周辺事業の拡大を図り、事業ポートフォリオを最適化する必要があります。

その一環として2009年10月より、長期にわたり住み継いでいただくための住宅循環の仕組みを「住まいのりんぐシステム」のブランド名で本格展開を開始しました。自社建築物を買取再生販売する「ホームエバー」もメニューに加え、ミサワホームグループが提供するサービスを住まいの循環システムとして体系化したものです。

“次世代ゼロエネルギー住宅”の開発

昨年は民主党による新政権が発足し、政府は2020年時点の温暖化ガス排出削減として「1990年比25%減」という高い目標を掲げました。これを達成するには新築住宅の全てを省エネルギー性の高い住宅とすることはもちろん、太陽光発電住宅のさらなる普及拡大が求められます。当社では昨年1月から開始された国の補助金制度と連動



して、よりお求めやすい価格で太陽光発電住宅をご購入いただけるよう、独自のキャンペーンを実施しました。その結果、2009年度における当社の太陽光発電住宅の普及率は23%を超え、2008年度の6倍以上の大きな伸びとなりました。また、太陽光発電システムを標準装備し、ゼロエネルギー、ゼロコスト、ゼロCO₂というトリプルゼロを実現しながらも、コストパフォーマンスにすぐれた企画住宅SMART STYLE「ZERO」も昨年4月に発売しています。さらに現在は生活時のゼロエネルギーはもちろん、建設時に必要なエネルギーをも居住段階で回収できるライフサイクルエネルギー収支ゼロを目指した“次世代ゼロエネルギー住宅”の商品化にも取り組んでおり、今年中の発売を予定しています。ミサワホームでは今後も太陽光発電を中心とした環境配慮住宅の開発に取り組んでまいります。

コンプライアンス

コンプライアンスについては会社が社会的責任を果たすための最も基本的な事項と捉え、社内に「経営改革委員会」を設置し、定期的な法令順守状況を確認しています。「経営理念・行動指針」を周知徹底させるため、「コンプライアンスガイドライン」と「コンプライアンスカード」を作成し、パート・派遣・契約社員を含むミサワホームグループ全社員に配布し、さらにガイドラインは社内イントラネットにも掲載し閲覧可能としています。また、コンプライアンスの重要性と一人ひとりの役割を認識させるため、役職員に対して階層別のコンプライアンス研修を実施しています。

わが社におけるCSRとは

ミサワホームのCSR報告書発行は今年で4回目となりますが、当社のCSR活動として取り組むべき課題はまだまだ多く残されています。CSR専門部署もまだ設けておりません。しかし、「住まいを通じて生涯のおつきあい」というコーポレートスローガンに基づき、社会のニーズにこたえる優良な住宅を開発し、それを普及させるという役割を全部門が果たすことが、当社の最大のCSR活動であると思っています。そのためにミサワホームが永年培ってきた、すぐれた「技術力」と「デザイン力」を活かし、良質な社会ストックとなる住宅の開発に、グループ一丸となって取り組んでまいります。その成果のひとつとして2009年度は、キッズデザイン協議会が子どもを産み育てやすい生活環境の実現に向けて、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つ製品、活動などを顕彰するキッズデザイン賞に「子どもと未来のため」にちょうどいい「カタチ」を提案したSMART STYLE「ZERO」と、家庭における事故内容とその予防・対策の調査を行っているミサワホーム総合研究所の「ミサワセーフティーレポートプロジェクト」が選定されました。今回で3年連続の受賞となります。ミサワホームでは今後も子育てと住まいのあり方についての研究開発に取り組んでまいります。ミサワホームグループのCSR活動はまだまだ不十分な点が多々ありますが、この報告書を最後までご一読いただき、忌たんのないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

企業理念

ミサワホームの社名にある「HOME」の文字。そこには、単なる器としての家（HOUSE）ではなく、家族のふれあいが感じられるような、暮らし方までトータルに考えられた住まい（HOME）の提供、という創業以来の住まいづくりの理念が込められています。

【コーポレートスローガン】

私たちミサワホームグループは「住まいを通じて生涯のおつきあい」という精神のもと、良質の「住まい」を提供し、豊かな社会づくりに貢献します。

【経営理念】

安全・快適で環境を重視した家づくり、街づくりを行います。

法令を遵守し、倫理を重んじて誠実に行動します。

地球全体を視野に入れ、環境保全活動などを行い、社会に貢献します。

企業価値の向上に努め、長期安定的な成長により、ステークホルダーとの共存共栄を実現します。

グループ社員が相互に信頼し、協力し合って能力を発揮する職場をつくります。

適正な財務報告・情報開示と適切なリスク管理を行います。

【行動指針】

1 | お客さま（消費者）に対して

- 私たちは、卓越したデザイン・技術により、良質で心のこもった商品・サービスを開発・提供します。
- 私たちは、誠実で適切な営業活動を行います。
- 私たちは、わかりやすく正確で適切な表示、情報提供を行い、十分な説明責任を果たします。
- 私たちは、アフターサービス体制を整備し、迅速で的確に対応します。
- 私たちは、お客さまの個人情報を適切に利用し、厳重に管理します。

5 | 社会・環境に対して

- 私たちは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。
- 私たちは、法令と社会的常識に基づいて行動します。
- 私たちは、官公庁、行政機関などと健全な関係を保ちます。
- 私たちは、反社会的勢力・団体からの不当な圧力に屈しません。
- 私たちは、地域社会の安全な生活に配慮し、地域社会と友好な関係を保ちます。
- 私たちは、事業活動を行うあらゆる地域において、社会貢献活動を積極的に推進します。

2 | 従業員に対して

- 私たちは、個人を尊重し、その成長を支援します。
- 私たちは、倫理的な行動を促す企業風土を育てます。
- 私たちは、国籍、人種、性別などによる差別を行いません。
- 私たちは、安全と健康に配慮した労働環境を保ち、さらに向上させるよう努めます。
- 私たちは、人権を尊重し、いかなる形であれ強制労働・児童労働は行いません。
- 私たちは、情報の重要性を認識し、情報セキュリティの確保に努めます。

4 | 株主（投資家）に対して

- 私たちは、長期的安定的な成長を通じ企業価値の向上に努めます。
- 私たちは、財務報告を含む経営情報を適時かつ適正に開示します。

3 | 取引先に対して

- 私たちは、取引先の決定にあたっては公正な基準と適正な手続により選定します。
- 私たちは、取引先と契約に基づく対等な関係を保ち、公正かつ自由な取引を行います。
- 私たちは、取引先と社会的常識の範囲内での節度ある関係を保ちます。



経営ビジョン・中期経営計画



ミサワホームグループでは、2006年8月に新たなステージに向かい確たる事業基盤を構築することを目的に、「中長期経営ビジョン」を策定しました。また、2008年には、このビジョンを達成するための「中期経営計画」がスタートしています。

【中長期経営ビジョン】

私たちミサワホームグループは
コーポレートスローガン・経営理念・行動指針に基づき

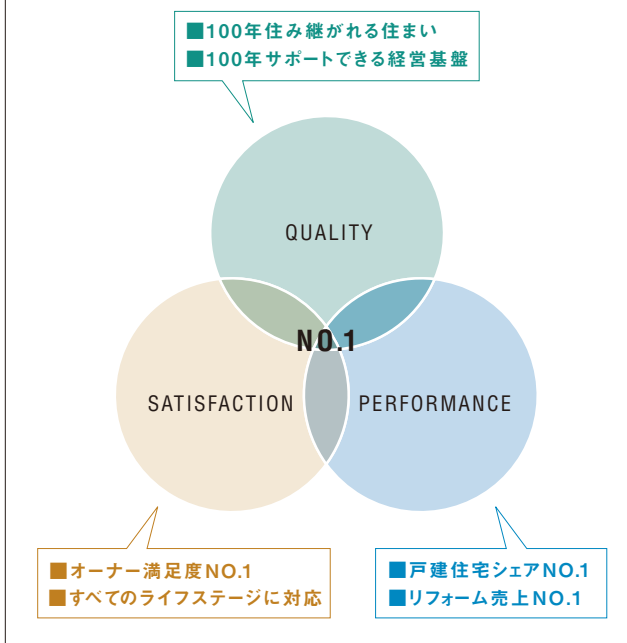
「お客さま満足の徹底追求」と

「時代をリードする発想力」で

「住まいのNO.1ブランド」を目指します。

ミサワホームの目指す「住まいのNo.1ブランド」とは、単に売上や利益といった計数面でトップになるだけではありません。住まいを思うときに最初に思い浮かべてもらえる企業、というのがNO.1ブランドたる意味合いであり、ミサワホームの思いです。「住まいのNO.1ブランド」を目指し、「QUALITY」「SATISFACTION」「PERFORMANCE」という3つの視点から、右に掲げる6つのターゲットを定めています。

住まいのNO.1ブランドを位置付ける6つのターゲット



【中期経営計画】

事業ポートフォリオの最適化

コア事業である戸建住宅事業に集中する当社グループの事業の見直しを行い、将来性が期待でき、今後市場の成長が見込まれるリフォーム事業や介護事業（シルバー事業）などの周辺事業へ経営資源を配分していくとともに、リスクファクターを共通にしない新規事業の立上げを検討するなど事業の多様化により、事業ポートフォリオを当社グループに最適なものに変更してまいります。当社グループはこれらの中長期的な視点に立った取り組みにより、新たな成長の実現を目指してまいります。

①賃貸住宅、戸建分譲事業

②リフォーム事業

③シルバー事業

④在来木造事業

事業構造の再構築

現在の厳しい環境においても着実に収益を計上するため、本社機能をスリム化するとともに、当社グループを挙げてのさらなるコストダウンの実施や人員削減により、固定費の圧縮を図ってまいります。2009年度はこれに基づき、静岡、駒ヶ根、島根の3工場を閉鎖、協力販売会社である株式会社吹穴工務店ミサワホームを完全子会社化、同じく連結子会社のミサワホーム北海道と東北ミサワホームの完全子会社化に向けた株式の公開買付など、さまざまなグループ経営体制の強化策を実施しております。

①営業生産性向上

②間接費削減

③直接費削減

④グループ組織の再編

住まいるりんぐシステム

ミサワホームでは、“長く住み継がれ、資産価値を維持できる住まいづくり”を重要テーマとし、



住宅の長寿命化のための技術開発やサポート体制の構築に取り組んできました。

さらに、自社建物物件を買取再生販売する「ホームエバー」を加え、新築からアフターサービスメンテナンス、リフォーム、

売却・賃貸管理を含めた不動産サポートまで、住まいの循環システムとして体系化。将来の安心を積極的に訴求しています。



次の世代、その次の世代へと
住み継ぐ安心をサポートします。

【スムストック】 （売却サポート）

「優良ストック住宅推進協議会」の基準を満たす建物を「スムストック」と認定。「スムストック査定」で、耐久性にすぐれたミサワホームの価値を評価します。

【買取再生販売制度 「ホームエバー」】 （売却サポート）

住み替えをお考えのオーナーさまの住まいを買取り、リフォームなどで次のオーナーさまへと受け継ぎます。永く住み継げる住まいづくりをお手伝いします。

【マイホーム 借上制度】 （賃貸サポート）

オーナーさま(50歳以上)のマイホームを一般社団法人移住・住みかえ支援機構が最長で終身にわたって借り上げ。安定した賃料収入を実現します。

【MRD倶楽部】 （賃貸サポート）

家を賃貸する際の負担を軽減し、長期間サポート。入居者募集から入居時の立会い、トラブル処理、建物・設備の修繕などの管理業務をお任せいただけます。



Smile-ring System



価値がつづく、安心がつづく、
だから笑顔がつづく住まいです。

【長期優良住宅】

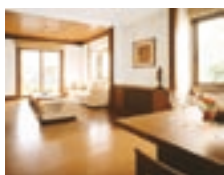
ミサワホームは標準仕様で「長期優良住宅」に対応。厳しい基準をクリアし、認定取得により住宅ローン控除や各種税制の優遇措置も受けられます。

【住宅性能表示制度】

住まいのさまざまな性能を同じ基準で比較できる「住宅の品質確保法」の「住宅性能表示制度」。ミサワホームは多くの項目で最高等級に対応可能です。

【住宅履歴情報 システム「MECIA」】

建物の基本情報、図面、工事・維持管理書類などをデータベース化して保存し、必要に応じて活用・開示が可能。住み継ぐ際に高い価値を維持できます。



【メンテナンス リフォーム】

住まいを長持ちさせるために、適切な時期の適切なメンテナンスと計画的なリフォームをご提案。住まいの耐久性や性能を高め、建物の保証延長も可能です。

【デザインリフォーム】

ライフスタイルの変化に合わせたワンランク上の「デザインリフォーム」をご提案。新発想のリフォームで、もっと快適で美しい家が実現します。

【まるごと ホームイング】

最新のデザインや技術で、外装・内装・設備を一新。建替えることなく、最新の展示場のように生まれ変わります。エコロジー＆エコノミーなリフォームです。

ミサワホームイング



大好きなわが家をもっと好きになる
リフォームをお届けします。



【保証制度】

「新築住宅保証制度」や「維持管理保証制度」など、業界トップクラスの保証制度を確立。保証延長制度も導入し、将来にわたり末永く安心を支えます。

【アフターサービス】

お引渡し後は、「定期巡回サービス」、「定期点検サービス」を実施。お客様相談センターによる「365日・24時間受付体制」などで、万一のときも安心です。

【メンテナンス】

毎日の暮らしに必要な情報をまとめた「HOME CARE HAND BOOK」をWEBサイトで公開。「住宅履歴情報」をもとに、補修や部品交換時期などもご案内します。

毎日、万一のときも、
あなたの住まいを見守っています。



コーポレートガバナンス

■ガバナンス体制

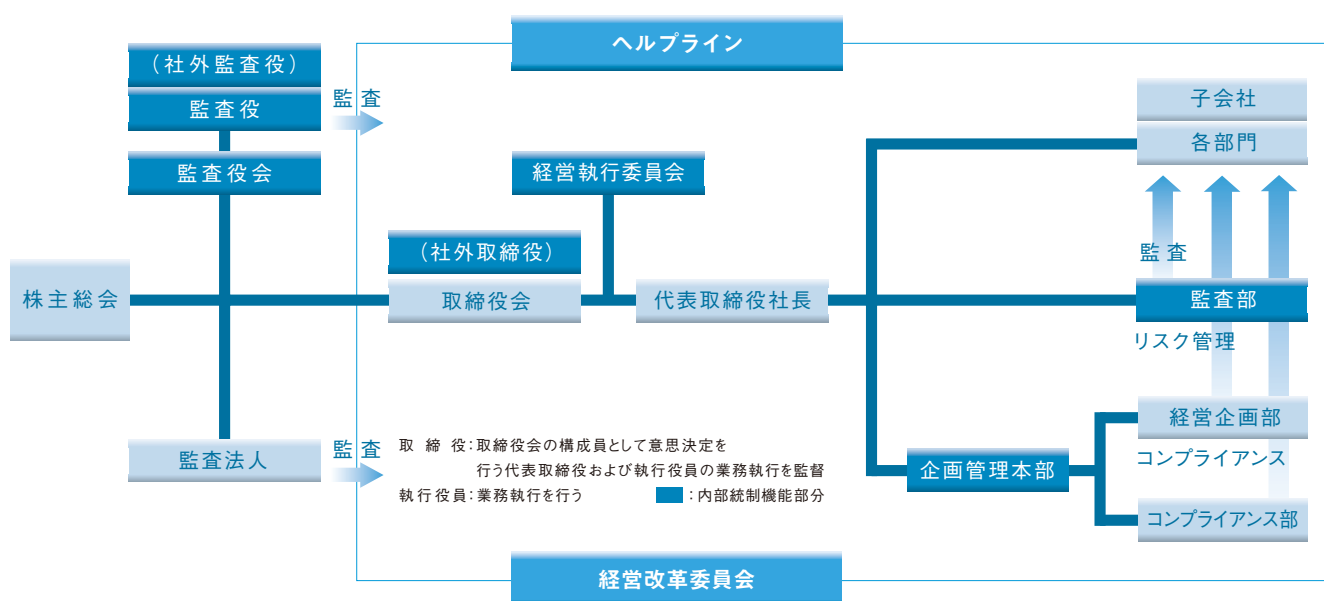


「住まいを通じて生涯のおつきあい」のコーポレートスローガンのもと、お客さま、株主はもとより従業員等事業活動に係わるすべての関係者の利益を重視し、コーポレートガバナンスの確立は極めて重要な経営課題と位置付け、企業経営の透明性と信頼性の確保に努め、企業価値の最大化と収益拡大に向けて、迅速かつ適正な経営に取り組んでおります。

■内部統制構築の基本方針

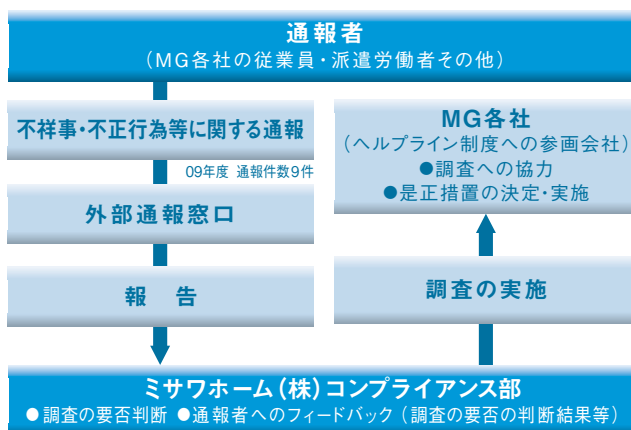


2006年5月に「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会で決議し(2009年6月一部改定)、「取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確実にするための体制」などをはじめとする10項目の基本方針を定め、ホームページ上に会社情報として開示しています。



■ヘルプライン

ミサワホーム関係者が、グループ内における不祥事や不正行為などを見かけたり、起こしてしまった際に相談・通報を受け付ける制度です。不祥事の拡大防止や不正行為の是正などを実施し、グループの社会的信頼を維持することを目的としています。たとえば同僚や上司が不正を行っていた場合、誰に相談すればよいかわからないなどの悩みを解消するために設けられている制度であり、グループの自浄作用を促すものです。実名・匿名いずれでも通報できますが、実名の場合でも関係者に名前が漏れないように配慮しています。



■個人情報保護



ミサワホームは、お客さまのご信頼とご満足を第一に考えた企業活動を基本とし、お客さまその他の個人の方からお預かりする個人情報を大切に管理することを重要な責務と考えて

います。その責務を遂行するため、個人情報の保護に関する法律に基づき、プライバシーポリシーを定め、これに従って個人情報の取り扱いを行うことを、全社に徹底しています。

2009年度CSR活動トピックス

お客さまと共に ジェニアス 都市型3階建住宅「GENIUS まちの空」を発売

WEB 

制約の多い都市部狭小地において、空間を一層プラスすることで“2階建では叶えられないお客さまの夢”を実現できるよう、長年ミサワホームが培ってきた「用途提案」「空間提案」「快適デザイン提案」といった3階建のノウハウを盛り込みました。スキップフロアを利用し各階の天井高に変化をつけたり、ビルトインカーポートによって敷地の有効活用を提案するなど「明るく・広く・心地よく」暮らすために3階建ならではの空間構成を提案しています。



お客さまと共に ハイブリッド ホームプラス 収入を生む家「HYBRID HOME plus」を発売

WEB 

“HOME plus(ホームプラス)”は、普通に生活しながら賃貸収入が得られる賃貸併用住宅です。新築時から賃貸住宅経営を計画されている方への「いまからプラス」と、将来賃貸経営や店舗併用住宅などを計画されている方への「あとからプラス」という二つの考え方を提案しています。この提案は、住居形態の変化に柔軟に対応でき、長期にわたって住宅が利用できるとして「平成21年度第1回長期優良住宅モデル事業」に採択されました。



お客さまと共に スマートスタイル シー 自分のスタイルをクリエイトできる「SMART STYLE C」を発売

WEB 

スマートスタイルシリーズは、従来の企画住宅とは異なり、コストを抑えながらも、性能、品質、機能を充実させ、プランの自由度向上や仕様・設備の選択肢拡大などを実現したコストパフォーマンスにすぐれた新・企画住宅です。「SMART STYLE C」は、今後、新たなボリュームゾーンになることが期待されているポスト団塊ジュニア世代をメインターゲットに、1次取得者でも購入しやすい延床面積100㎡前後のコンパクト市場に向けて開発しました。



お客さまと共に

ミサワ ウェブ ダイレクト

「MISAWA WEB DIRECT」を強化し、WEB専用商品「Makinghome」を発売

メイキングホーム

WEB



「MISAWA WEB DIRECT」は、Web上のプランや外観、仕様・設備を選択することで、建築コストを確認しながらお客さまのペースで住宅購入を検討できる住宅販売サイトです。「Makinghome」は、ネット販売という特性を踏まえ、お客さま自身がサイト上でメイキングできる余地をたっぷりと残せるように、1階をピロティ形式の自由で開放的な半屋外空間とするなどで、2階3層建の“高床式フリースタイル”の住まいとしています。



お客さまと共に

「長期優良住宅」仕様を戸建住宅商品で標準化

WEB



ミサワホームは、創立以来、“長く住み継がれ、資産価値を維持できる住まいづくり”を重要テーマのひとつに位置付け、業界に先駆けた長期保証制度の導入およびCHS[※]のシステム認定取得など、住宅の長寿命化のための技術開発に積極的に取り組んできました。昨年から施行された「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が意図する普及促進への取り組みとして、戸建住宅商品については「長期優良住宅」の認定基準に適合する仕様を標準化しました。



※財団法人ベターリビングの制度。長期間快適に暮らせる住宅を提供するため、設計・生産・維持管理にわたり審査を行い、認定する制度（現在は運用されていません）。

お客さまと共に

ホームページに愛犬家のためのサイト「犬と暮らす家」をオープン

WEB



ホームページ上で犬と暮らすための家づくりをかしこく実現できる情報を掲載したサイト「犬と暮らす家」を公開しました。ミサワホームでは屋内飼育で生じるさまざまな問題を解決し、犬と快適に暮らせる居住環境の整備が重要と考え、さまざまな提案を盛り込んだ愛犬家のための家づくりに取り組んでいます。「愛犬家住宅」をテーマとした約5000人のアンケートを実施し、これによるご意見をデータベース化・コンテンツ化しました。



「犬と暮らす家」のホームページより

2009年度CSR活動トピックス

社会と共に

“住育”で子どもたちの成長を応援する、保育園事業者との初のコラボレーション

WEB

ミサワホームは、創立当初から「住まいは子育てのために」という信念のもと、住宅が担う子育ての機能について研究し、その成果を商品開発に反映してきました。このノウハウを活用すべく保育施設運営実績が豊富なコビーアンドアソシエイツと協力体制を構築していくことについて基本合意。第1弾として東京都目黒区にコビーアンドアソシエイツが直営で開設する認可保育園「コビープリスクールかみめぐろ」のリフォーム工事を実施しました。



社会と共に

子育て書籍シリーズ第3弾「ヒヤリハットさんちへいってみよう!」を発刊

WEB

住まいの安全学習絵本「ヒヤリハットさんちへいってみよう!」を発刊。本書は、イラストの中に隠された事故になりそうな事例“ヒヤリハット”を子ども自らが見つけ出し、そこから得られる“気づき”により、楽しみながら安全判断力を養えることが特長です。ミサワホームでは本書を用いて幼稚園での親子のコミュニケーションによる安全学習ワークショップなども実施し、住宅メーカーとして子どもたちの安全・安心に寄与できるような活動も行っています。



※第7回消費者教育教材資料表彰「優秀賞」受賞

社会と共に

スマートスタイル ゼロ

SMART STYLE「ZERO」など2点が3年連続「キッズデザイン賞」を受賞

WEB

「子どもと未来のため」にちょうどいい「カタチ」を提案した SMART STYLE「ZERO」が建築・空間デザイン部門で、家庭における事故内容とその予防・対策の調査を行っているミサワホーム総合研究所の「ミサワセーフティレポートプロジェクト」がコミュニケーションデザイン部門で第3回キッズデザイン賞を受賞。今回で3年連続の受賞となります。ミサワホームでは今後も子育てと住まいのあり方についての研究開発に取り組んでいきます。



SMART STYLE「ZERO」のインテリア



2009年
キッズデザイン賞受賞

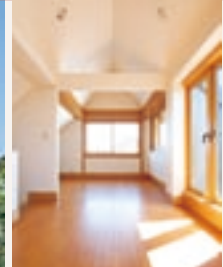
社会と共に

「住まいるりんぐシステム」をブランド展開し、「ホームエバー」事業を本格開始 WEB

ミサワホームでは、長期にわたり住み継いでいただくための住宅循環の仕組みを「住まいるりんぐシステム」のブランド名称で2009年10月より本格展開を開始しました。自社建物物件を買取再生販売する「ホームエバー」もメニューに加え、新築からアフターサービスメンテナンス、ホームイングによるリフォーム、売却・賃貸管理を含めた不動産サポートまで、住まいを通じてご家族の暮らしをずっと見守り続けるロングサポートシステムです。



施工後



施工後



社会と共に

20年連続でグッドデザイン賞を受賞 WEB

木質系戸建住宅SMART STYLE「ZERO」と耐震木造住宅「Season j」、[偉人筆跡カレンダー]の3点がGマークを受賞しました。これにより20年連続、通算で104点が受賞したことになります。住宅業界ナンバーワンの受賞実績に裏付けられた「デザインのミサワホーム」として、建物の品質や性能の向上を図るとともに、すぐれたデザインの商品を開発し、住まいの「安心・安全・快適」を提供していきます。 **GOOD DESIGN AWARD 2009**



耐震木造住宅「Season j」

社会と共に

グループ社員が第51次南極地域観測隊員に参加 WEB

ミサワホームグループの社員2名が、第51次南極地域観測隊員に選ばれ、南極昭和基地に向けて出発しました。両名の参加により、当社グループからの南極地域観測隊参加は累計7名になります。両名は国立極地研究所に出向し、基地の設備や生活の維持を担当する設営系の隊員として、過去にミサワホームが部材供給して建設した昭和基地の居住棟や観測棟などの改修や、2009年に受注した「自然エネルギー棟」の基礎を施工しました。



南極昭和基地

2009年度CSR活動トピックス

社会と共に

「第1回高齢者居住安定化モデル事業」で業界最多の4提案採択

WEB

「高齢者居住安定化モデル事業」とは、2009年度に創設され、先導的な高齢者向けの住宅に関する技術・システム等の導入や高齢者向けの生活支援・介護サービス等が効率的・効果的に提供される住まいづくり・まちづくりのあり方について、広く国民に提示し、技術の進展に資する事業を、国が公募し建設工事費等の一部を補助する制度です。ミサワホームでは4つのモデル事業を提案し、全て採択されました。

【第1回高齢者居住安定化モデル事業 採択事業】

- ◎「押すだけコール」高齢者生活支援モデル事業
- ◎高齢者将来サポートコミュニティ
- ◎早めの住みかえを可能にする生活サポート付賃貸住宅の安定供給システム構築事業
- ◎ミサワホームの高齢者居住安定改修モデル



押すだけコール

社会と共に

第61回全国カレンダー展で「経済産業大臣賞」を受賞

WEB

2010年版のカレンダー「偉人の生涯と筆跡カレンダー（宮沢賢治篇）」が、第61回全国カレンダー展において、最高位である経済産業大臣賞を受賞しました。昨年も同賞を受賞しており、2年連続での最高位での受賞は快挙となります。ミサワホームでは、今後もカレンダー制作を通して過去の偉人たちの功績を紹介し、文化の発展に寄与するとともに、お客さまご家族のコミュニケーション向上のお手伝いをしていきたいと考えています。



2010年版「偉人の生涯と筆跡カレンダー（宮沢賢治篇）」

社会と共に

杉並区の「夏休みサイエンススクール」に参加

東京都杉並区の高井戸小学校で開催された「夏休みサイエンススクール」に参加し、子どもたちに身近な住まいの危険や快適に過ごすさまざまな工夫を、体験を通して学んでもらいました。参加者は小学生と保護者の約180人。小学1～2年生と保護者には、住まいのなかに潜む危険を学習し、住まいをより安全な場所にしてもらうプログラムを、3～4年生には、五感で心地よさを確認、体験し、自然と共生する住まいの工夫を理解してもらうプログラムを行いました。



「夏休みサイエンススクール」の様子

地球環境と共に

スマートスタイル ゼロ

SMART STYLE「ZERO」が業界初の「ゼロCO₂」認証取得

WEB 

ゼロCO₂実現のため、SMART STYLE「ZERO」では「ECOフォルム」を提案しています。小屋裏2階建てで省資源と省エネ化を図り、PV[※]システムの発電などに有効な急勾配大屋根デザインを採用。また自然エネルギーを活用したECO・微気候デザインで快適生活を送れます。ゼロCO₂・ゼロエネルギーモデルは年間CO₂排出量と削減量との収支がゼロになることについて、業界初の「ゼロCO₂」の第三者認証を取得しました。



※ PV : Photovoltaic。太陽光発電。

地球環境と共に

ベルリード エコ

PV搭載の“エコな賃貸住宅”「Belle Lead eco」を発売

WEB 

地球温暖化対策のひとつとして、太陽光発電(PV)の導入が注目されています。各入居者が余剰電力を売電できるPVを搭載し、環境に配慮した賃貸住宅「Belle Lead eco」。IHクッキングヒーターや電気温水器といったオール電化設備、ディンプルキーによるダブルロック採用の玄関ドア、TVドアフォンなどの防犯アイテムを標準装備。各入居者は発電効果を楽しめるとともに入居満足度が高まり、オーナーさまにとっては安定した入居率や家賃設定が期待できます。



地球環境と共に

太陽光発電住宅のCO₂排出削減事業で「国内クレジット制度」の事業承認取得

WEB 

太陽光発電により創出される一般家庭のCO₂排出削減量をバンドリング(取りまとめ)してクレジット化する事業の排出削減事業共同実施者として、経済産業省の国内クレジット制度において事業承認を取得しました。太陽光発電でまだ十分に評価されていない、自家消費分の「環境価値」を生かす仕組みとして「ECOになる家の会」を発足することで、太陽光発電住宅の地球環境への貢献を具体的な形でお客さまに訴求し、より一層の普及拡大を目指しています。



左「ECOになる家の会」のホームページ 右 募集チラシ

2009年度CSR活動トピックス

地球環境と共に 発電量や電気・ガス・水道の使用状況がわかる「エネルギーモニターシステム」を発売 WEB

地球温暖化への対策として[※]HEMSの早急な実用化及び普及が求められています。HEMSとは、複数の家電や給湯機器などをIT技術の活用によりネットワークでつなぎ、自動制御するシステムで、エネルギーモニターはそのひとつの機能を受けもちます。家庭でのエネルギー使用量や機器の動作を計測・表示することで、住まい手の省エネルギー意識を喚起させ、住まい手自身の省エネ行動によりエネルギー消費量を抑えることができます。



「カラーエネルギー表示器」

※ HEMS:ホームエネルギーマネジメントシステム

地球環境と共に 環境緑化事業の新会社「ミサワエクステリア」を発足 WEB

独自のノウハウと高いデザイン力で、住宅や街の付加価値を高める環境緑化に本格的に参入するため、グループ内の景観事業ブランド「SOUKEN」と、造園事業「ウィズガーデン」ブランドを引き継ぎ、新会社「ミサワエクステリア」を設立しました。自社の建物と庭をセットで提案するだけでなく、一般住宅の造園についても積極的に訴求。公共施設デザインや、工場やオフィスの環境評価コンサルティングも行い、他社との連携による事業拡大も図っていきます。



地球環境と共に 経済産業省のスマートハウス実証プロジェクトに採択

スマートハウスとは「エネルギーの需要・供給情報等を活用して賢くエネルギーが使用・制御される仕組みをもつ住宅」のことで、断熱・気密等の建物の性能向上やエネルギーの可視化に加えて、家庭用太陽電池や蓄電池等の新エネルギー機器、家電、住宅設備を適切にコントロールすることで家庭からのCO₂排出量を半減することを目的としています。ミサワホーム総合研究所は、経済産業省の「スマートハウス実証プロジェクト」を受託し、既築住宅を用いた実証実験を行い有効性を確認しました。



太陽光発電住宅のまちづくり例



HEART

深く信頼されるミサワホームをめざして

社会の責任ある一員として誠実に行動し、お客さまをはじめ、あらゆる人びとの「HEART」と深い信頼関係を築けるよう努めます。





HEART

お客さまと共に

ミサワホームグループは、すぐれた住まいづくりを通じてお客さまの満足度向上を追求します。

良質な商品の開発 ミサワホーム独自の卓越した技術・デザインにより、良質な商品を開発します。

4つの育む

WEB

ミサワホームは、お子さまの未来のために、環境保全から歴史的価値のあるまちづくり、安全・安心で健康的な暮らし、日本文化の継承など、広い視野で住まいづくりを考えた「4つの育む」をお約束します。

環境を育む

ミサワホームは、一步先のECO住宅の実現をお約束します。2010年度までの活動計画「SUSTAINABLE 2010」に基づき、「ECO・微気候デザイン」の標準化、次世代省エネルギー基準を超える高断熱性能の全棟標準化、ECO素材の活用や建物の長期耐久化、住宅のライフサイクルにおけるCO₂削減率20%（1990年度比）などの達成を目指しています。さらに太陽光や太陽熱、雨水・風力・地熱など、新しい自然エネルギーの活用をすすめます。



家族を育む

ミサワホームは、いつまでも安心して快適な暮らしを楽しめる住まいづくりをお約束します。増加傾向にある犯罪からご家族を守るため、先進のセキュリティシステムを拡充。家庭内事故も未然に防げる住まいづくりをすすめています。お子さまのすこやかな成長を促し、子育てをサポートする「キッズデザイン」の普及を推進。“休養・こころの健康づくり”ができる住まいの開発をすすめ、末永く健康的に暮らせる住まいづくりを推進していきます。



暮らしを育む

ミサワホームは、永く住み継がれる価値の高い住まいづくりをお約束します。200年暮らせる家を視野に入れ、何十年に一度の大地震にも耐える住まいを設計。制震装置の全棟標準装備も目指しています。住まいとまちに歴史的価値を与えるため、歳月とともに価値を高める美しい建物をデザインし、メンテナンスしながら住み継げる住まいづくりを推進。維持管理や保証内容の充実を図り、社会資産としての住宅再活用システムもすすめています。



日本の心を育む

ミサワホームは、日本人のアイデンティティを大切にする新しい暮らしをお約束します。モノを大切にする心を育て、ご家族の大切な品を継承する大収納空間「蔵」の普及を促進。自然の中で生きていることや四季の移ろいを実感できる、先人の知恵「ECO・微気候デザイン」を設計します。「和の心」や地域特有の文化を再定義し、それぞれの風土に対応した住宅や暮らしを研究。日本を14エリアに分け、各地域に根ざした商品開発体制を整備します。



100年、200年で価値をはかる住まいづくり

WEB

住まいは、ご家族の財産であり、人生を楽しむ舞台です。いつまでも、快適に、安心して暮らせるわが家であって欲しい。ミサワホームではそんな思いを込めて100年、200年で価値をはかる住まいづくりに努めています。



耐震性にすぐれた構造・工法の採用

ミサワホームの住まいは「木質パネル接着工法」や「鉄骨ラーメン構造」といった耐震性にすぐれた構造方法を採用。阪神・淡路大震災ではもちろん、創立以来、倒壊は一棟もありません[※]。住宅メーカーの責務として、すべての人が安心して暮らし続けられる、地震に負けない住まいづくりを推進します。[※]地盤に起因する被害は除く

■木質系住宅（木質パネル接着工法）

WEB

「木質パネル接着工法」は、すぐれた耐力壁である木質パネル同士を、高分子接着剤やスクリー釘、接合金物によって強固に「面接合」し、床面・壁面・屋根面からなる6面体を形成する独自開発の工法です。さまざまな外力が構造の一点に集中せず、建物の“面”全体に分散してバランスよく受け止めることで高い強度を実現する、理想的な「壁式構造」の建物です。



外力を分散して受け止める「モノコック構造」

■ハイブリッド系住宅（鉄骨ラーメン構造）

WEB

ミサワホームのハイブリッド住宅は、鉄骨ラーメン構造を採用しました。高層ビルなどにも取り入れられている構造により、地震に対するすぐれた安全性を確保しています。大地震にねばり強く耐える耐震構造で、地震などの外力が加わっても力を1点に集中させることはありません。構造全体で加重を吸収・分散させる特徴があります。



鉄骨ユニットの接合部

地震エネルギーを最大50%に軽減する制震装置「MGEO」

エムジオ

WEB

ミサワホームは、地震に強い住まいをさらに安心な住まいにするために、地震の揺れを吸収して地震エネルギーを50%に抑える、制震装置「MGEO」を開発しました。2004年に実施した実大振動実験では、13回の連続する巨大地震などをはじめとする合計39回もの加振を行いました。構造体の損傷ゼロはもちろん、内装仕上げ材にも目立った被害はありませんでした。



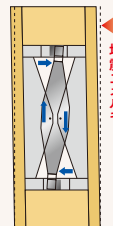
実大振動実験

耐震+制震「MGEO」の特長

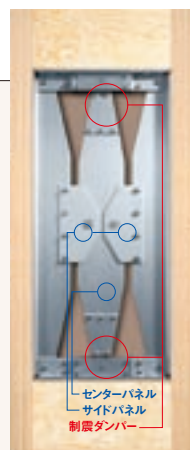
- 材質：アルミ製
- 地盤・敷地・プラン条件：特に条件なし
- 設置数：1階に2カ所（X方向、Y方向に各1カ所）
※建築面積100㎡以下の場合。
- 効果：繰り返し何度でも効果あり
- 耐風性：暴風・台風などにも効果あり
- メンテナンス：基本的にメンテナンスフリー



制震ダンパー内の高減衰ゴム



制震装置概念図



◇'06グッドデザイン賞
制震耐力壁「MGEO」

最高レベルのシックハウス対策と室内空気環境を実現

WEB

ミサワホームでは、いち早くシックハウス対策に取り組んできました。床・壁・天井の仕上げ材には、JIS・JAS規格のホルムアルデヒド発散量基準においてもっとも安全性が高い等級のF☆☆☆☆（フォースター）相当の建材を使用しています。また要求レベルがF☆☆☆となっている天井裏についても、最高等級であるF☆☆☆☆の建材を使用しています。

建築材料の区分	ホルムアルデヒドの発散	JIS、JASなどの表示記号	内装仕上げの制限
建築基準法の規制対象外	少ない	F☆☆☆☆	制限なしに使える
第3種ホルムアルデヒド発散建築材料	↑ ↓ 多い	F☆☆☆	使用面積が制限される
第2種ホルムアルデヒド発散建築材料		F☆☆	
第1種ホルムアルデヒド発散建築材料		旧E2、Fc2 又は表示なし	使用禁止

建築基準法における規制対象建材

木質建材（合板、木質フローリング、パーティクルボード、MDFなど）・壁紙・ホルムアルデヒドを含む断熱材・接着剤・塗料・仕上げ塗材など ※原則としてJIS、JASまたは国土交通大臣認定による等級付けが必要です。

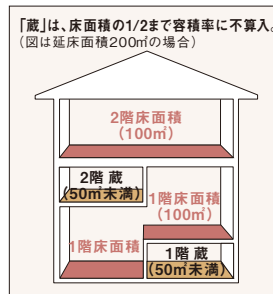


大収納空間「蔵」を実現した空間設計力

WEB

ミサワホームは「木質パネル接着工法」による構造体の強さを生かし、住まいの中に設ける大収納空間「蔵」^{※1}を提案しています。天上高1.4m以下の「蔵」は、設置階の床面積の1/2未満で設計すれば床面積に算入されず、タテにもヨコにも広い家にする事が可能です。^{※2}

※1「蔵」は居室としての使用はできません。※2自治体により算入しているところもあります。



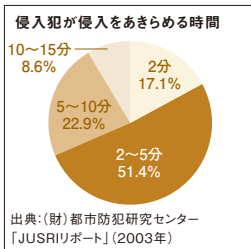
大収納空間「蔵」

総合的な防犯対策で安心して暮らせる住まいをご提案

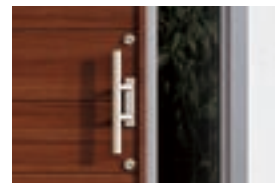
WEB

侵入窃盗事件の約4割弱を占める戸建住宅侵入犯のうち、半数近くは留守中を狙う空き巣であり、ガラス破りなどによる窓や玄関からの侵入がほとんどです。一方、侵入に5分以上かかるとあきらめる場合が多いという調査結果もあります。ミサワホームではこれら

の傾向を見極め、“狙われにくい”“侵入しにくい”“被害の出にくい”という3段階のセキュリティをご提案しています。



外から見通しのきくバルコニー



「錠開け」がしにくい玄関ドア

将来の変化に備えた2段階配慮のバリアフリー設計

WEB

住まいのバリアフリーは、健常者が安全で快適に暮らせるよう家庭内事故を予防する第1段階と、加齢による虚弱化や障害の発生に対応する第2段階に分けられます。ミサワホームでは、第1段階は「基本設計のバリアフリー」として、新築時に対応。そのうえで、個別の「高齢・虚弱対応のバリアフリー」「介護・障害対応のバリアフリー」(第2段階)を加えやすい2段階配慮設計を推進しています。

新築時から対応したい「第1段階のバリアフリー」には、いわゆるユニバーサルデザインの要素も含まれます。そのうえで、将来の高齢化や身体機能の低下に応じて個別対応する「第2段階のバリアフリー」により、家族の誰に対してもやさしい住まいをデザインします。



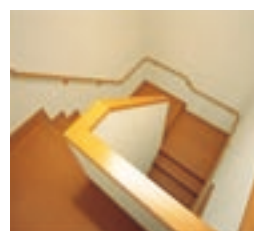
床段差を抑えた玄関



上がりやすい玄関框



幅広廊下



階段連続手すり



フットライト

良質なサービスの提供 万全のアフターサービス体制など、お客さまサービスの向上に努めます。

3つの保証制度で、住まいとご家族の安心をサポート



「住まいを通じて生涯のおつきあい」がモットーのミサワホームでは、サポート体制の充実に力を注いできました。高い技術力によるすぐれた耐久性をベースに、構造体を20年保証する「新築住宅保証制度」、その後も保証を延長できる「維持管理保証制度」、住まいの売買時にも安心の「既存住宅保証制度」という3つの長期保証制度を、住宅業界に先駆けて確立しています。



定期巡回・定期点検サービス



オーナーサポートシステム

	2年	5年	10年	15年	20年	25年	30年	～ 50年	～ 100年	～ 150年	～ 200年
点検制度	● 6 ヵ 月 目 (定期巡回)	● 11 ヵ 月 目	● 23 ヵ 月 目		● (定期点検) 10年目		● (定期点検) 20年目	● (定期点検) 30年目※1	※1以降10年ごとに実施 (任意、有償)		
保証制度	構造体							延長可	新築住宅の保証は延長が可能。※2 既存住宅の保証は再保証・保証延長が可能。※2 保証延長には耐久診断(有償)・耐久工事(有償)の実施が条件		
	防水				延長可	延長可	延長可	延長可			
	防蟻				延長可	延長可	延長可				

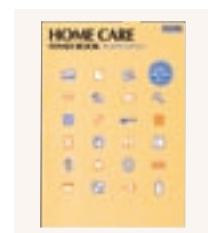
※2 平成22年6月末までにご契約いただいたオーナー様向けの内容です。詳細はホームケアハンドブック、保証書をご確認ください。

末永い安心を支える充実のアフターサービス体制

ミサワホームでは、ご入居後の長期にわたるアフターサービス体制も充実しています。まず、メンテナンスのプロがお住まいの状態をチェックする定期巡回・定期点検制度。また、万一の事態に対しても迅速・的確に対応できるよう、お客様相談センターによる「365日・24時間受付体制」や台風や地震時に備える「災害時待機体制」も整え、万全のサポートを実現しています。



「365日・24時間受付体制」のお客様相談センター



ご入居前にお渡しする
住まいのお手入れガイド
「ホームケアハンドブック」

消費者志向優良企業表彰

ミサワホームは、住まいと暮らしのよきパートナーであるよう、つねにお客さまの視点に立って企業活動を進めています。1997年、こうした



姿勢が評価され、消費者利益の保護に積極的で消費者志向体制が整っていると認められた優良な企業を経済産業大臣が表彰する「消費者志向優良企業」に表彰されました。住宅メーカーとしては初めてです。



オーナーさまの声を「お伺い書」で調査

ミサワホーム本社では、全国のディーラーがお引き渡しした住まいのオーナーさま一人ひとりのプロフィールを登録・管理。ご入居後3ヵ月目と12ヵ月目の2回、直接発送・回収方式でご意見をお伺いしています。「住まいごち」「できばえ」「サービス」の品質状況を確認し、お客さまの満足度合を調査。その結果は、コンピューターに入力・分析され、サービスシステムの改善や商品の改良、新商品の開発、現場での業務改善などに活用しています。



今のお住まいの資産価値を高める「ミサワホームイング」

WEB

ミサワホームならではの先進の技術力をいかし、今のお住まいのリフォームをトータルにお手伝いするのが「ミサワホームイング」です。住まい全体をまとめてリフォームする「まるごとホームイング」をはじめ、環境に配慮したリサイクル素材「M-Wood」による空間提案、在来木造住宅用の耐震+制震リ

フォーム「MGEO-R」など、住宅専門メーカーとして培ってきた技術とノウハウ、豊富な実績により、建てる時からその後のライフスタイルの変化への対応まで、末永く快適で安心な暮らしをサポートします。



リフォーム後のイメージを体感できる展示場見学



MGEO-R制震装置 設置イメージ

■業界初のグッドデザイン賞を受賞

WEB

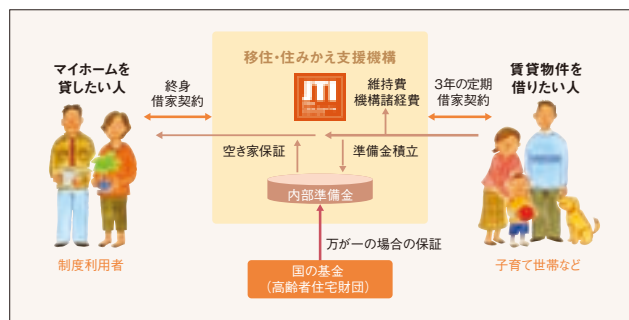
「ホームイング」は「Home+ing」。愛着のある住まい(Home)をいかし、いつまでも現在進行形(ing)で手を加えながら、より快適な暮らしを実現しつつ、資産価値を高めていくことを意味しています。そのコンセプトや、ミサワホームの最新住宅のデザインを再現するリフォームシステム、環境に配慮した素材・工法・部品などが高く評価され、リフォーム業界では初となるグッドデザイン賞(2001-2002年)を受賞しました。



リフォーム実例

移住・住みかえ支援適合制度

一般社団法人移住・住みかえ支援機構(JTI)の協賛会社であるミサワホームは、新築を購入する時に、将来JTIの「マイホーム借上げ制度」の利用が可能であることを約束する、「移住・住みかえ支援適合住宅制度」の適用を業界で初めて受けました。適合住宅の一定の条件・基準を満たし、証明書の交付を受けることによって、将来、利用条件を満たせば年齢に関係なく、建物診断を省略して「マイホーム借上げ制度」を利用することができます。



「移住・住みかえ支援機構」ホームページより

住まいづくりのテーマパーク

ミサワホーム本館内(東京都杉並区)に、住まいの体験型施設「ミサワパーク東京」を開設しています。大地震の揺れを体感することができる「地震シミュレーター」や「南極コーナー」をはじめ、ミサワホーム独自の「ECO・微気候デザイン」や大収納空間「蔵」など、住まいづくりに役立つさまざまな先進の技術やデザインを体感できます。



地震シミュレーター



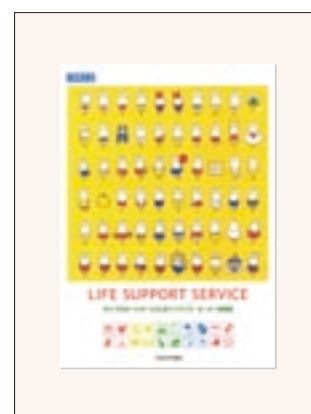
住まいづくりの新提案ゾーン

MISAWAオーナーズクラブ

ミサワホームの住まいで、末永く快適に、心豊かな暮らしをお楽しみいただくために、インターネット上にオーナーさまの会員制サイト「MISAWAオーナーズクラブ」を開設しています。暮らしに役立つ多彩な情報や、メンテナンスに関するお知らせなどを随時発信しているほか、各種ご相談窓口やオーナーさま同士の交流をお楽しみいただけるコンテンツなども充実しています。また、ミサワホームでは、ご入居後のよりよい暮らしをトータルにサポートするサービス内容も充実しています。8カテゴリー・30種類以上の生活・サービス特典を付け、すべてのオーナーさまにライフサポートサービスとしてご提供しています。



MISAWAオーナーズクラブ



ライフサポートサービス



HEART

従業員と共に

ミサワホームグループは従業員の個性を尊重し、その成長を支援します。

労働環境の整備 従業員一人ひとりがいきいきと働ける労働環境を整備します。

雇用状況

WEB

ミサワホームグループでは、全国各地で地域密着の販売・設計・施工・アフターメンテナンスを行う「ディーラー」、住産業の一躍を担い幅広い分野の事業を展開する「関連会社」、「工場」が一体となり、グループの総合力でお客さまに住まいと暮らしを包括した心豊かな価値をお届けしています。新卒採用はこのグループ各社ごとに募集・選考を行っています。2010年度（2010年4月）の新卒採用は、中期経営計画に基づく「事業構造の再構築」を実施中であり、グループ全体で差し控えました。2011年度の採用については現在ホームページにて情報提供しています。



ミサワホームの雇用状況（2010年3月31日現在）

従業員数	本社 680名	連結 9,041名
女性社員比率	本社 117名(17%)	連結 1,556名(17%)
障害者比率	21名(1.73%) ※本社のみ	
非正規社員	176名 ※本社のみ	
平均勤続年数	本社 男性16年・女性12年	

ワークライフバランスの確立

ミサワホームでは中長期経営ビジョンにおいて「ワークライフバランスの確立」を掲げており、この目標に向けて、社員の一人ひとりがやりがいのある仕事と充実した私生活のバランスを取りながら、持っている能力を最大限に発揮できるように、各種の取り組みを行っています。具体的な取り組みとして、労働時間の短縮、休日・休暇の拡大や育児・介護などに対

する支援など、多様な働き方への環境整備を実施しています。2009年度の各種制度の利用状況は以下の通りです。

制度利用状況（2009年度）

育児休業： 8名	介護休業： 0名	時短措置： 20名
----------	----------	-----------

LQ休暇

ミサワホームでは2005年より、従来の夏期休暇（3日間）と創業記念日（10月1日）をフレックス化し、これに有給休暇1日を加え年間を通じて任意の時期に取得できる「LQ休暇制度」を採用しています。「LQ」とは「Life Quality（生活の質向上）」と「Long（長い）休暇（Q）」を掛け合わせた造語

で、個人の働き方、生活に合わせた休暇を充実させ、仕事と生活の質の向上を図ることを目的としています。この制度を利用することで土曜・日曜日の定休日と合わせて最大9日間の連続休暇の取得が可能となります。

人事評価制度

ミサワホームの人事評価制度は「目標による管理制度(MESSE)」による「業績評価」と、「コンピテンシー評価」で構成されています。「業績評価」については賞与査定にダイレクトに反映させ

る一方、その成果を持続的に発揮する行動についての「コンピテンシー評価」を行い、その両方に昇給査定・昇格選考に反映させることで、バランスのとれた評価を実現しています。

メンタルヘルスケア

2008年より、ミサワホーム本社社員向けにメンタルヘルスマたはキャリア（職務を含む人生そのもの）上の悩みについて、専門家が支援を行い、適切な対応、メンタル疾病の発症予

防および適切な治療への連携を図る「EPAサービス」を実施しています。外部の専門機関に業務委託することにより、より高品質で、守秘レベルの高いサービスを提供しています。

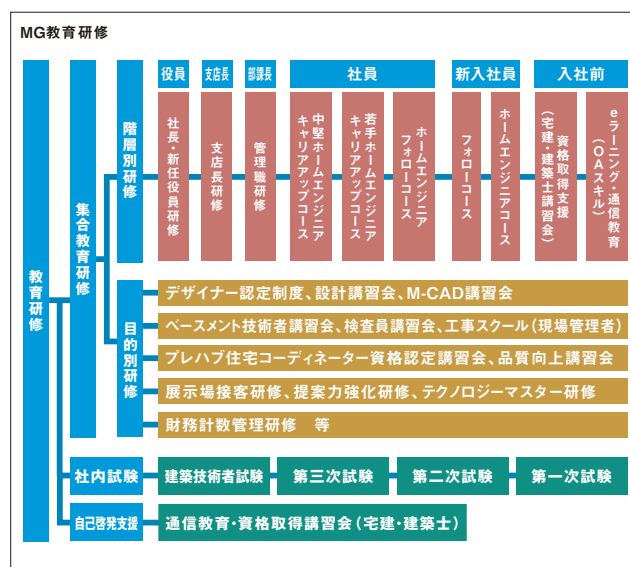
従業員意識調査の実施

ミサワホームではグループ社員が仕事に対し、常に意欲的な気持ちで取り組むことができるよう、2003年より「従業員意識調査」を実施しています。これは社員の仕事や会社に対する意見・意識を直接的に確認することにより、今後の人事施策の参考として活用することと、社員のモチベーション阻害要因を早期に発見し、改善に努めるために実施しているも

のです。2005年からは「MGモチベーションサーベイ」として、対象を連結子会社を中心としたグループ企業全体に拡大して実施。この調査結果を通じて、LQ休暇制度の導入や、育児・介護支援制度の拡充などの職場環境の改善が図られています。

社員育成制度の充実

ミサワホームでは「MG（ミサワホームグループ）教育研修規定」を設け、教育研修の基本的事項を定めています。この規定の基本方針は、グループ社員の向上心と自己啓発意欲を喚起、助長し、各人が自ら人格の統制と資質の向上に努めるべく教育研修の機会を提供するとともに、現在および将来の業務上必要とされる知識・技能および態度を習得させ、グループの発展と社会的使命の達成に寄与する人材を育成することを目的としています。この規定に基づき、新入社員から経営者にいたる全階層に対し、それぞれに期待される知識・技能および態度などを習得させる「階層別研修」を導入。また、2007年度からは経営理念・行動指針の周知徹底を図るためにコンプライアンス研修を拡充し、一般社員・管理職はもとより、販売会社の社長を含めたトップに対しても研修を実施しています。





HEART

取引先と共に

ミサワホームグループは取引先との共存共栄をはかり、対等な関係と公正かつ自由な取引を行います。

協力・教育・啓発 仕入先企業や施工工事店の方々とのコミュニケーションを推進しています。

仕入先企業協力会「センチュリー会」

ミサワホームでは、オーナーさまにご満足いただける快適な住まいを提供するためには、仕入先企業など取引先との共存共栄と、品質確保・環境保全などについての協力体制が極めて重要であると考えています。当社の仕入れ先企業112社（2010年4月現在）で組織する「センチュリー会」では、当社のグループ行動指針に基づき、会員各社と対等か

つ公正な関係を築くとともに、共同で環境負荷低減活動や安全・安心・CS向上などに取り組んでいます。



センチュリー会

施工品質を確保する作業員養成

ミサワホームでは、新規にミサワホームの工事を請け負う全国施工工事店の職方を対象に、ミサワホームにおける施工の基本知識の習得を目的とした工事スクールを実施しています。また、業種別における施工品質の確保を目的とした研修会を定期的に開催。ミサワホーム販売代理店では、社内基準・マニュアルに基づいた適切な施工方法を、現場ごとの現場作業

者に対して指導・教育した上で社内規定で定められている検査・管理を実施しています。その他、定期開催する施工工事店を集めた会議により、ミサワホームの新規技術、各工事店が持つノウハウ、さらに施工技術に関する情報を共有し、指導、教育の啓発活動を通じて、より高いスキルをもった作業者の育成が行われています。

技能訓練センター

ミサワホームでは、茨城県常総市に技能訓練センターを開設しています。ミサワホームを現場で施工する大工職や工事主任、専門職方を主な対象とした研修の場で、座学と実習を効果的に連携したカリキュラムで施工品質の向上を図っていくほか、マナー教育や環境学習も盛り込み、現場でのさらなるCS向上を目指しています。



技能訓練センター



施工現場の安全性を確保する活動推進

ミサワホームでは、施工現場での労働災害を撲滅するために、階層別教育をはじめ、安全パトロール、安全大会など、さまざまな活動を行っています。また、施工現場での安全意識を啓発するためのツールを適宜提供し、充実を図っています。なお、従来の是正処置型安全活動から予防処置型の労働安全衛生マネジメントシステムによる安全活動への切り替えを検討

しています。具体的には「P.D.C.A」サイクルの推進により、安全管理体制を構築し、年ごとに確実にレベルアップできる管理体制づくりを目指しています。中でも、マネジメントシステムの核となる「リスクアセスメント」への取り組みにより、危険・有害要因を調査し、軽減対策を実施し、リスクの除去および施工現場での「危険低減活動」を継続して推進しています。



HEART

株主(投資家)と共に

ミサワホームグループは企業価値の向上に努め、経営情報を適時かつ適正に開示します。

経営指標及び開示方針 経営情報の迅速かつ公平な開示に努めています。

連結業績ハイライト

WEB

2010年3月期(2009年度)の連結経営成績は、売上高3,536億円(前年比11.9%減)、営業利益87億円(前年比0.5%増)、経常利益77億円(前年比10.2%増)となりました。住宅市場の低迷などにより受注が伸びず売上高は対前年を下回りましたが、販売費及び一般管理費の大幅な削減により営業利益、経常利益、当期利益ともに対前年を上回りました。

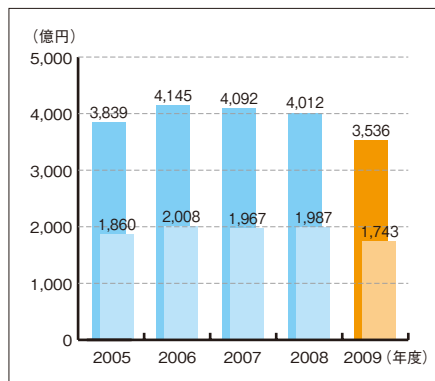
(百万円)

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度(予想)	
						中間期	通期
売上高	383,941	414,566	409,245	401,204	353,620	175,000	355,000
営業利益	17,882	13,065	7,798	8,680	8,725	2,000	6,800
経常利益	14,564	12,069	6,430	7,001	7,712	1,500	6,000
当期純利益	124,024	191	389	△2,983	3,044	100	2,500
総資産	224,469	235,135	227,894	194,933	180,306	—	—
純資産	22,442	26,946	26,345	21,243	23,461	—	—

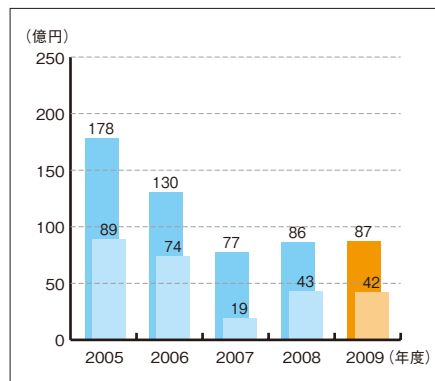
(円)

1株当たり当期純利益	3,844.63	5.17	10.49	△80.43	82.15	2.70	67.47
1株当たり純資産	△661.61	△683.64	△685.03	△788.11	△711.02	—	—

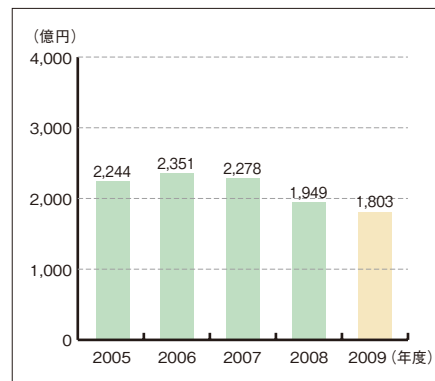
売上高



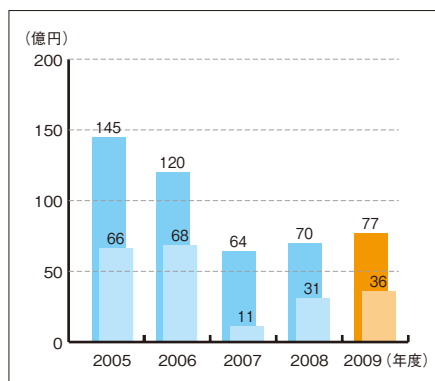
営業利益



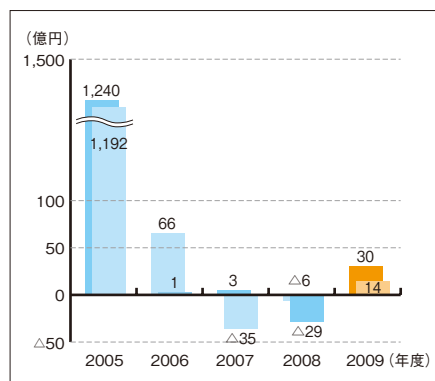
総資産



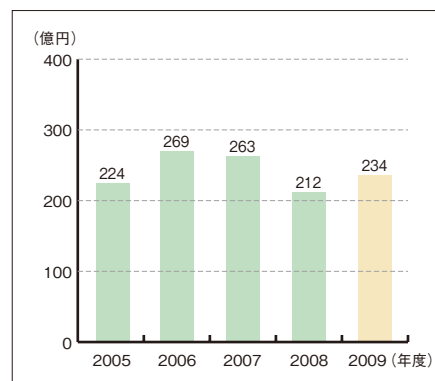
経常利益



四半期(当期)純利益



純資産





株主への配当方針

WEB

当社は安定配当の維持を基本としつつ、利益の状況と事業展開を総合的に勘案し、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会となっています。なお、当社は取締役会の決議に

より、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めています。また、2010年3月期の配当については、繰越利益剰余金が欠損となっているため、見送りとさせていただきました。

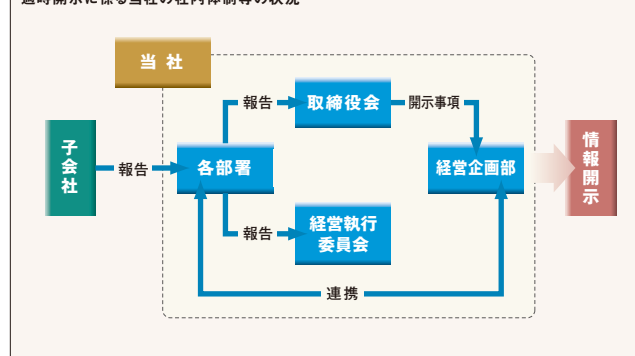
適時開示に係る基本姿勢

WEB

ミサワホームはグループの経営ビジョンとして、「社会・お客さま・株主・従業員に満足を提供する」を掲げるなど、株主・投資家との信頼関係を構築・維持するために、重要な会社情報の適時適切な開示が極めて重要な責務であるとの認識に立ち、従来より鋭意適時開示に取り組んでいます。取締役会および経営執行委員会などで決定した事項や子会社および各部署で把握した事項のうち、金融商品取引法および東京証券取引所の定める適時開示規則により開示が要請される重要情報ならびに投資判断に影響を与えられる情報などについて、適宜開示活動に努めています。また、社長をはじめとした主要執行役員ら経営陣が率先して説明責任を果たしています。開示活動の実際にあたっては、経営企画部が主管部署となり、子会社および関連部署と連携して速やかな開示に努めています。当社グループの内部統制活動の監視・

検証としては、監査役の会社法上の監査のほか、弁護士等各分野における専門家の意見を参考にコンプライアンス体制の構築に努める中で、経営会議への報告を行うことにより、健全な業務執行の維持・向上に取り組んでいます。

適時開示に係る当社の社内体制等の状況



IR情報の開示

WEB

ミサワホームでは、中間・期末の決算発表後に、機関投資家・証券アナリストの皆さまを対象とした説明会を開催しています。説明会にて頂戴したご意見・ご質問は、証券市場の声として真摯に受け止め、経営やIR活動に反映できるよう努めています。また、工場や展示場などの施設見学会を開催し、当社に対する理解促進を図るとともに、機関投資家・証券アナリストの皆さまと良好な関係を築いています。個人投資家の皆さまには、株主通信を年2回発送しています。さらに当社ホームページのIRサイトに、決算説明会で使用したプレゼン資料や適時開示情報、英語版のアンニュアルレポートを掲載し、迅速かつ公平な開示に努めています。



IR説明会



アンニュアルレポート



HEART

社会と共に

ミサワホームグループはあらゆる地域で、社会資産をデザイン及びストックします。

まちづくり 人にも自然にもやさしい、快適に暮らせるまちづくりを通じて社会に貢献します。

ミサワホームのまちづくり

WEB

快適なまち、暮らしやすいまち、育っていくまちとはどんなまちか。ミサワホームでは、これまでに手掛けた豊富なまちづくりの経験から、そこに住む人の目線の先にこそ、その答えがあると考えました。なによりも大切なのは、暮らしからの発想です。この視点から、美しいまちなみと質の高い住環境を育み、次代への誇りをもって手渡すことのできる「まちづくり」に取り組んでいます。ミサワホームは、まちづくりを“つながり”で考えます。住ま

いの内と外、隣りあう敷地、敷地とみち、さらには、まちの周辺環境とのつながりにいたるまで。そうしたさまざまなつながりが美しいまちなみの景観となり住む人びとの気持ちを豊かにしてくれるのです。ミサワホームは、そんなまちを実現するために、まちづくりのモノサシを、さまざまなスケールでとらえ、心から暮らしを楽しめる。豊かな住環境を描き出します。

「微気候デザイン」を取り入れたまちづくり

WEB

ミサワホームは、先人の知恵と先端の技術を融合させて住まいと屋外環境にわたる住環境全体を設計することを“微気候デザイン”と名づけました。微気候とは、住まいとその周辺の局地的な気候のことで、夏涼しく冬暖かく変えることが可能。この

“微気候デザイン”の手法を導入したまちづくりに、ミサワホームは全国各地で取り組んでいます。



宮崎台「桜坂」

10年後のまちづくり

WEB

美しく育てていくために、きちんとデザインする…。まちづくりのコンセプトは、10年後、20年後のまちなみに、はっきりと現われてきます。ミサワホームのまちづくりでは、住まれる方々に愛されつづけ、将来にわたってその価値を高めていくさまざまな工夫を提案します。



オナズヒル神戸学園都市



8年後

まちづくりの実績

WEB

自然の形態、環境を極力変えずに開発するなど、自然環境を大切にしながら土地を有効活用する「ランドプランニング」という手法。ミサワホームはこの「ランドプランニング」をカナダやアメリカで実施し日本に導入、日本の風土や慣習に適合するように改善を重ねています。住む人に四季の自然と親しめるエクステリアを提供するとともに、資産価値の高い、美しいまちなみづくりを実現しています。ミサワホームの目指す「まちづくり」は、入居者にとって良いまちなみであると同時に、地域に評価されるまちでありたいと願っています。歴史や気候風土

に培われた、環境共生型のまちづくりに取り組み、その成果は建設大臣表彰など、数々の受賞として認められています。



マリナイースト21碧浜



アーバンスクエア桜風



社会貢献 住まいづくりの企業として、科学、文化、福祉などさまざまな分野で社会に貢献します。

昭和基地の建物の多くはミサワホーム



最低気温 -45°C 、風速 60m/秒 といった厳しい気候を設計条件とする南極の建物。極めて高レベルの断熱性・気密性・堅牢性などが求められます。ミサワホームでは1968年の第10居住棟以来、3階建の管理棟、2002年のNHKスタジオ棟など延べ約 $5,000\text{m}^2$ もの建物を受注。厳しい環境で40年近くも続けてきた南極での建設は、ほかでは得られない貴重な経験です。ミサワホームは、極寒の地で鍛えられた先端技術を日本の住まいづくりにも活かしています。



南極昭和基地の建物の多くはミサワホーム

充実のコレクションを収蔵・展示「バウハウスコレクション」



1919年に設立されたドイツの造形学校「バウハウス」。インテリア、グラフィックデザインなどの斬新な作品群は近代デザインの源流とされています。ミサワホームはその理念と創作活動に共鳴し、総合研究所内に展示スペース「ミサワバウハウスコレクション」を開設。作品約 $1,500$ 点、蔵書約 $13,000$ 点、資料約 $1,200$ 点に及ぶコレクションを収蔵しています。毎回異なるテーマで企画展を開催するほか、美術館への出展などを通じて広く公開しています。



充実のコレクションを収蔵・展示

住まいと暮らしをテーマにした出版活動



住文化のシンクタンク、ミサワホーム総合研究所では、住まいと暮らしをテーマにした出版活動を積極的に行っています。数あるなかで特に評価が高いのが、著名文化人による書き下ろしエッセイと一流写真家による美しい写真を融合し、人と住まいの文化の歴史を探究した「住まいの文化誌」シリーズ。「日本人」、「天災人災」など巻を重ね、1992年には出版物として初めての建設大臣（当時）表彰を受賞しています。この他にも多彩な書籍を発行。「住まいの安全を考える本」など、住まいづくり・暮らしづくりに役立つ内容が盛りだくさんです。



「住まいの文化誌」シリーズ

介護・福祉事業



ミサワホームは2000年の介護保険制度導入以前から、高齢者問題に正面から取り組むべく、ケア付き住宅事業に進出。介護専用型高齢者住宅「マザアス南柏」、グループホームや品川区高齢者複合施設「ケアホーム西五反田」をはじめ、さまざまなタイプの介護・福祉施設の事業運営を手がけてきました。企画から建設・運営までトータルに対応できる経験を積み重ねています。

■介護付優良老人ホーム「マザアス南柏」

日本で初めて、住宅金融公庫融資で建てられた介護専用型住宅「マザアス南柏」。介護保険制度が導入される以前から、一人ひとりを大切にしたいホテルライクな暮らしを提供してきました。専門スタッフによるサービスは、ご入居者とご家族から厚いご信頼をいただいています。

■軽費老人ホーム「ケアホーム西五反田・さくらハイツ西五反田」

「ケアホーム西五反田」は品川区が考える、有料老人ホームでも特別養護老人ホームでもない、新しいタイプの個室型介護専用施設。ケアハウスの制度を利用して、ユニット（小規模）ケア方式を採用し、トータルなライフサポートを行います。効率的な施設利用と新しいサービスを可能とするため、建設する前に、運営コンサルティングをミサワホームが行っています。

■小規模多機能型居宅介護「マザアスホーム憩」

「マザアスホーム憩」は、介護施設ではなく“ホーム”をつくることをコンセプトに設計されました。ミサワホームの戸建て住宅と同じ部材材を活用することで、わが家にいるようなくつろぎ感を出しているのが特徴です。

■グループホーム「だんらん松戸」

改正介護保険制度には、住み慣れた身近な地域で、いつまでも自分らしく暮らし続けられるように「在宅介護」が重視されています。これを受けて「だんらん松戸」では、グループホームでは初めての「在宅支援型」をスタートさせました。

地域に根ざした介護ネットワーク

マザアスコート南柏駅前（高齢者専用賃貸住宅）



在宅サービスエリア



マザアスホームヘルプ
（訪問介護・居住介護支援）

マザアス南柏（介護付有料老人ホーム）



だんらん流山（グループホーム）



だんらん松戸（グループホーム）



マザアスホーム憩（小規模多機能ホーム）隣接



だんらん柏（グループホーム）

マザアスとの協力医療機関



向小金クリニック（往診可）



千葉愛友会記念病院



旭神経内科リハビリテーション病院



柏光陽病院



おたかの森病院（順不同）

EARTH

地球にやさしいミサワホームをめざして

住まいという居住環境はもちろん、「EARTH」という地球環境まで視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めます。

ミサワホームグループの環境への取り組み

ミサワホームでは1997年に住宅業界初のISO14001認証を取得し、同時に「環境宣言」を公表しました。以降、その宣言に基づき、さまざまな環境活動を展開してきました。そして2006年度から2010年度までの5ヵ年で達成すべき環境目的・目標を定めた環境活動計画を「SUSTAINABLE 2010」として策定。この計画に基づき、グループ一丸となって環境活動を展開しています。

環境宣言

【理念】

私たちミサワホームは、最も基本的な生活単位であり、人間形成の場である住まいを提供する企業として、住宅という居住環境はもちろん、街という生活環境、そして広くは地球環境までを視野に入れ、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努めてまいります。

【行動指針】

ミサワホームグループの一人ひとりが地球環境問題の重要性を認識し、環境保全における自らの役割を考えながら行動します。

商品開発にあたっては、研究、開発、購買、生産、流通、使用(生活)、廃棄等の各段階において環境への影響を考慮し、より良い住まいづくりを追求します。

工場生産部門では、環境関連法規を遵守し、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減に努めるとともに、自主管理基準を設け地域環境に配慮した生産活動を推進します。

現場生産部門では、周辺環境に配慮し、車輛運搬も含めた施工の合理化・効率化、建設廃棄物の低減を図り、より環境負荷の少ない施工システムを導入します。

環境保全に関連するイベント等への参画及び研究活動への協力・支援を行い、広く社会とのコミュニケーションを図ります。

社員全員への環境研修を徹底し、地球規模の視点に立った環境保全活動によって、社会に貢献できる人材を育成します。

SUSTAINABLE 2010

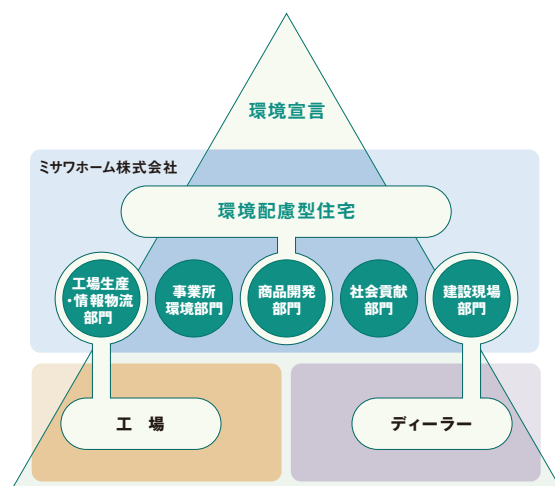
2006年度～2010年度

新5ヵ年計画
2001年度～2005年度

中期3ヵ年計画
1998年度～2000年度

環境宣言
1997年策定

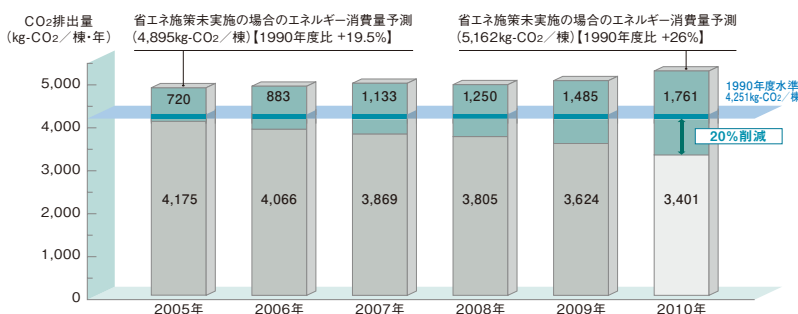
- 1 **CO₂削減**
住宅のライフサイクルにおける二酸化炭素排出量を1990年度比20%削減します。
- 2 **資源の有効活用**
地球環境における資源の有効活用を図るため、環境配慮素材の活用や建物の長寿命化・長期耐久化を促進します。
- 3 **ゼロ・エミッション**
2010年度までに工場・現場におけるゼロ・エミッション化を達成します。
- 4 **健康配慮**
室内環境汚染原因物質を削減し、健康に配慮した住宅を供給します。
- 5 **まちづくり**
人と自然が共生し、資産価値の高いまちづくりを促進します。



「SUSTAINABLE 2010」は、住まいのさらなる省エネ化の実現を推進しています。

ミサワホームが供給する新築住宅の、居住段階・工場生産段階・輸送段階におけるエネルギー排出量の削減を行い、CO₂排出量を1990年度比20%の削減を目指します。

CO₂削減シミュレーショングラフ



ミサワホームの環境会計

ミサワホームでは、環境保全対策に関わる費用とその効果を定量的に把握・分析するため、環境会計を2000年度より導入してきました。継続的かつ効果的な環境経営をめざし、ステークホルダー（お客さま、取引先、投資家、NGOなど）の方々への情報開示を推進しています。

2009年度も昨年度に引き続き、環境省発表の「環境会計ガイドライン（2005年度版）」を参考に算出し、環境保全活動とそのコスト・効果をより明確にするため、当社独自の集計項目（経済的效果・CO₂削減効果）を加えています。

ミサワホームの環境保全コストおよび効果

項目	環境保全コスト(百万円)			効果	
	ミサワホーム	工場		経済効果 (百万円)	CO ₂ 削減効果 (t-CO ₂)
		木質※	セラミック		
	設計・開発	生産			
事務所活動	7	—	—	7	45
公害防止	—	152	49	—	—
省エネルギー・創エネルギー	627	3	1	1,297	24,027
省資源		174	—	60	183
新素材・リサイクル		60	19	—	10,375
長期耐久性		—	—	—	382
健康な居住環境		—	—	—	—
自然環境	4	5	5	—	—
廃棄物(工場・現場・関東資源循環センター)	180	21	8	11	0
環境マネジメントシステム	73	38	6	—	—
合計	891	453	88	1,375	35,012

集計対象

会計対象期間
2009年4月～20010年3月

会計対象範囲
ミサワホーム株式会社(本社・本館・LACビル・関東資源循環センター)
ミサワホーム工場15工場(木質工場14工場、セラミック工場1工場)

集計方法
環境省発行の「環境会計ガイドライン」の基準に沿って算出、当社独自の項目で集計

環境投資
環境保全に係る新規投資は、木質工場が34百万円で、セラミック工場が94百万円。
ミサワホーム株式会社における投資は68百万円。

経済効果
実質的效果及び推定的効果を計上。
実質的效果…環境保全活動の結果得られた節約益、有価売却益を計上。
推定的効果…環境保全活動が寄与したとみなされる付加価値等、仮定的な計算に基づく効果を計上。

CO₂削減効果
環境目的・目標の実績をもとに環境活動評価プログラム(環境省)およびエコアクション21
(社団法人プレハブ建築協会)のCO₂排出量の算出方法により計上。

※木質部品工場(3工場)を含む

■2009年度集計結果について

2009年度ミサワホームグループの環境保全コストは、「ECO・微気候デザイン」を取り入れた商品の技術開発や関東資源循環センターの稼働などにより、14億3,200万円となりました。環境保全効果については、企画商品の拡充や太陽光発電システム及び高効率設備機器の普及によるCO₂削減に取り組んだ結果、経済効果(みなし含む)は13億7,500万円となりました。CO₂削減効果についても、35,012t-CO₂となり前年度の28,374t-CO₂に対し23%向上しました。環境保全コスト当たりのCO₂削減指数は24.4t-CO₂/百万円となり、前年度比35%アップとなりました。

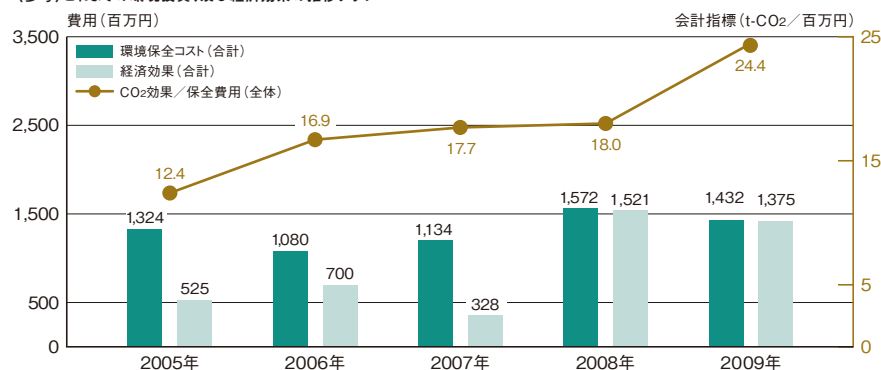
(参考) 環境省 環境会計ガイドラインによる集計

単位:百万円

環境省ガイドライン集計項目		環境保全コスト(費用)		ミサワホーム(本社・本部)		ミサワホーム工場			
						木質工場※		セラミック工場	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
(1)生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	①公害防止コスト	0	0	13	152	66	49		
	②地球環境保全コスト	0	0	2	3	0	1		
	③資源循環コスト	68	187	19	255	0	27		
(2)生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷の抑制コスト(上・下流コスト)		0	0	0	0	0	0		
(3)管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		0	51	0	38	0	6		
(4)研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		0	631	0	0	0	0		
(5)社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		0	22	0	5	28	5		
(6)環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		0	0	0	0	0	0		
小 計		68	891	34	453	94	88		
合 計		投資額		196	費用額	1,432			

※木質部品工場(3工場)を含む

(参考) これまでの環境投資、及び経済効果の推移グラフ





ミサワホームの環境マネジメントシステム

環境方針

ミサワホーム株式会社は、ミサワホームグループ環境理念を踏まえ、商品開発及び事務所内活動を以下の方針に基づいて行います。

1 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境影響を的確に把握し、この環境方針達成のため、
中期的な環境目的と年度環境目標を設定し、定期的な見直しを行うことで環境管理システムの質の継続的改善を図ります。

2 商品開発において、設計、開発、購買、生産、流通、使用(居住)、
廃棄物処理の各段階で継続的改善を行い、環境負荷低減・健康を考慮した住まいづくりを推進します。

3 住まいを通じて、気候風土や生物環境にも配慮して地域の特性を生かし、環境に配慮した美しいまちづくりを推進します。

4 事業所内活動において、資源の有効活用を図るため、使用エネルギーの効率的活用及びリサイクルの推進に努めます。

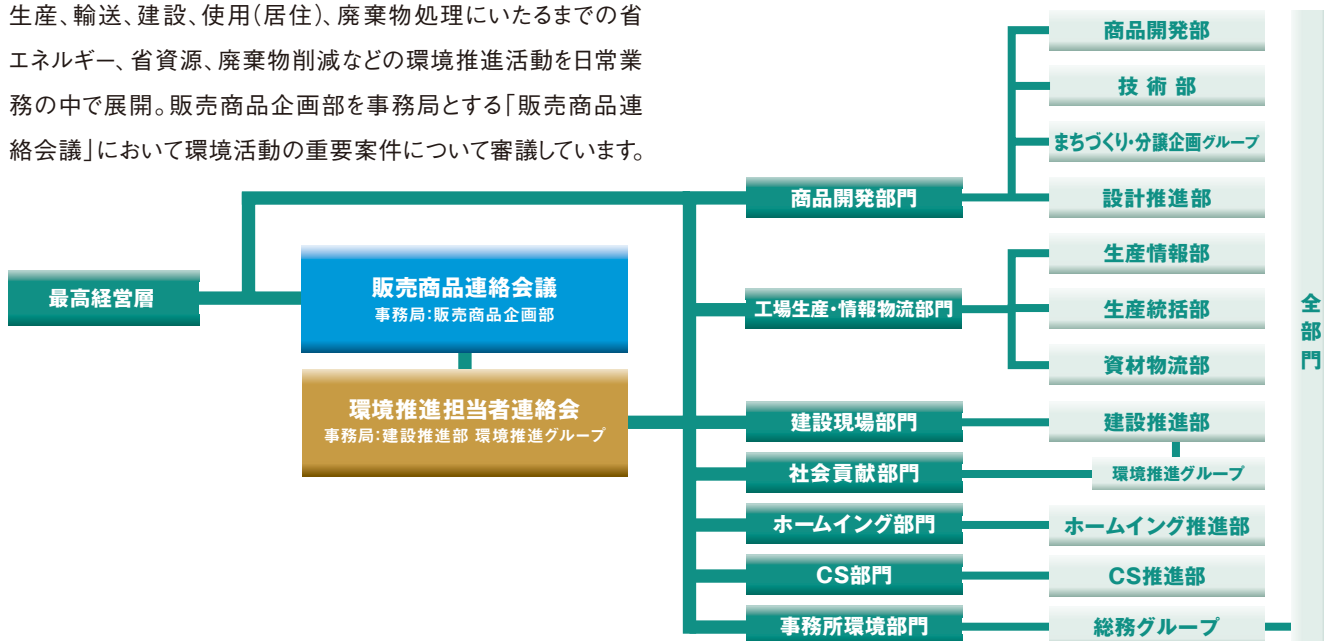
5 当社の活動、製品、サービスにかかわる環境関連の法律及び当社が同意する要求事項を厳守します。

6 環境保全、社会貢献などの協働活動の機会を通じて当社にかかわる方々との環境パートナーシップを強め、
環境方針や当社の環境推進活動をインターネット等を通じて公開することなどで、広く社会とのコミュニケーションを図ります。

7 全従業員に環境教育を行い、この環境方針を理解させるとともに地球規模の視野に立った環境保全活動に貢献できる人材を育成します。

■環境活動の推進体制

生産、輸送、建設、使用(居住)、廃棄物処理にいたるまでの省エネルギー、省資源、廃棄物削減などの環境推進活動を日常業務の中で展開。販売商品企画部を事務局とする「販売商品連絡会議」において環境活動の重要案件について審議しています。



■ISO14001 認証取得

1997年、(株)ミサワテクノ・ミサワホーム松本工場が業界初の環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証を取得以来、商品開発部門から生産工場、関連会社にいたるまでグループ全体で認証取得を行い、現在、ミサワホーム本社・本館、11工場及び関連企業2社が取得しています。また、内部・外部監査等を通して事業活動の継続的改善に努めています。

ISO14001認証取得工場・会社一覧

工場・会社……………取得年月日		
木質工場	松本工場……1997年6月13日	木質工場
	福岡工場……2000年7月1日	
	沼田工場……2000年12月1日	セラミック工場
	岩手工場……2001年1月1日	本社・本館・LACビル
	梓川工場※……2001年2月1日	関連会社
	福井工場……2001年3月24日	
	山梨工場……2001年3月24日	
	磯原工場……2001年4月20日	
	札幌工場……2001年8月23日	
	岡山工場……2003年5月31日	
	名古屋工場……2001年3月31日	
	商品開発を含む全部門	1999年2月4日
	ミサワホームフィンランド	1999年12月4日
	ミサワホームイング多摩	2006年12月9日

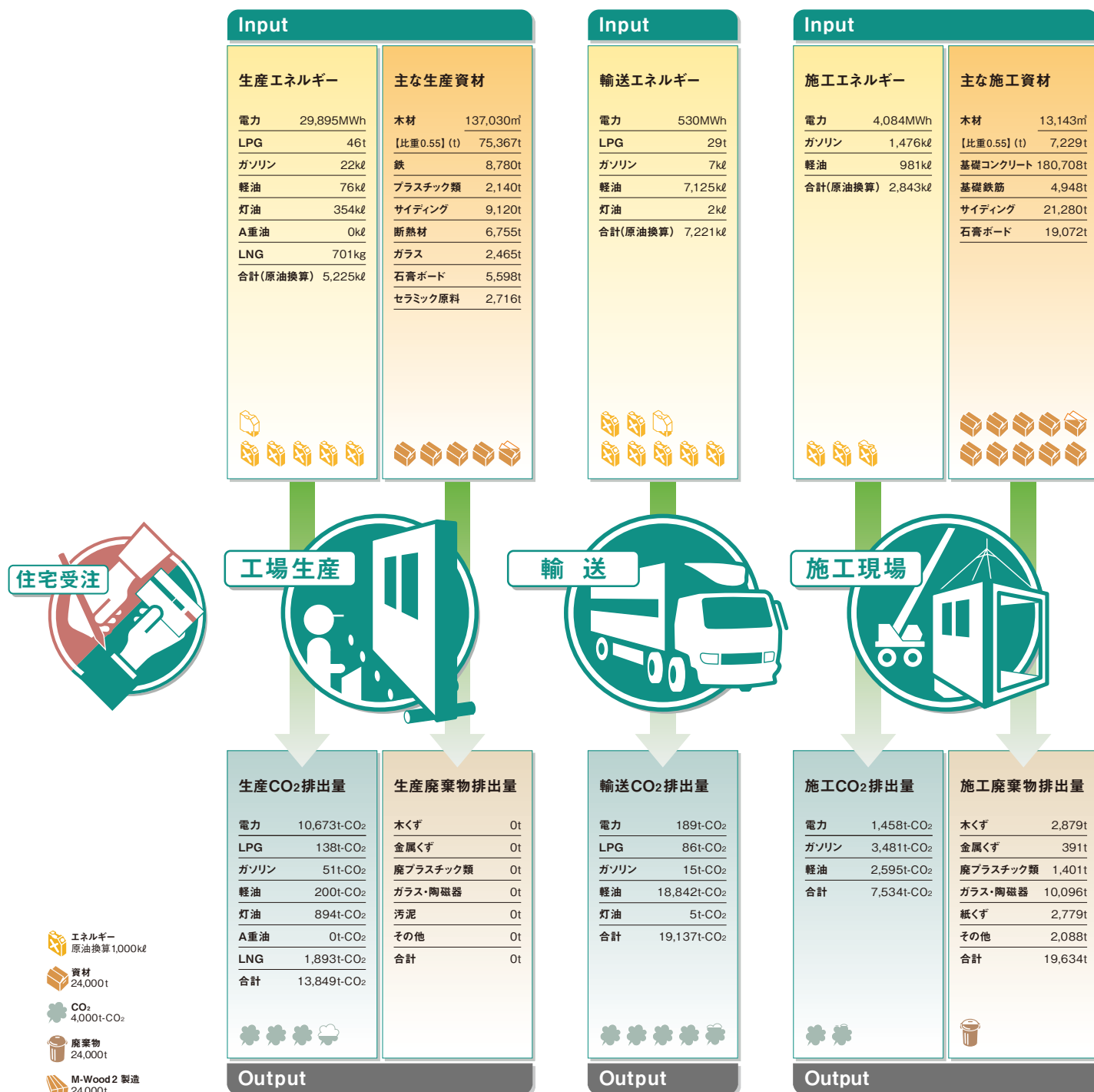
※木質部品工場

2010年3月末現在

ミサワホームの環境への関わり

住宅の生産、輸送、施工、居住、解体には、多くの資材とエネルギーが投入され、廃棄物や温室効果ガス(CO₂)などが排出されています。ミサワホームでは、2009年度の販売実績に基づいて環境側面から環境影響を的確に把握し、効果的に環境負荷を低減させるため、ライフサイクル(生産・輸送・現場・居住段階)ごとの資材とエネルギーを集計しインプットとし、廃棄物や温室効果ガス(CO₂)などのアウトプットを「マテリアル&エネルギーフロー」としてまとめています。

2009年度 マテリアル&エネルギーフロー図

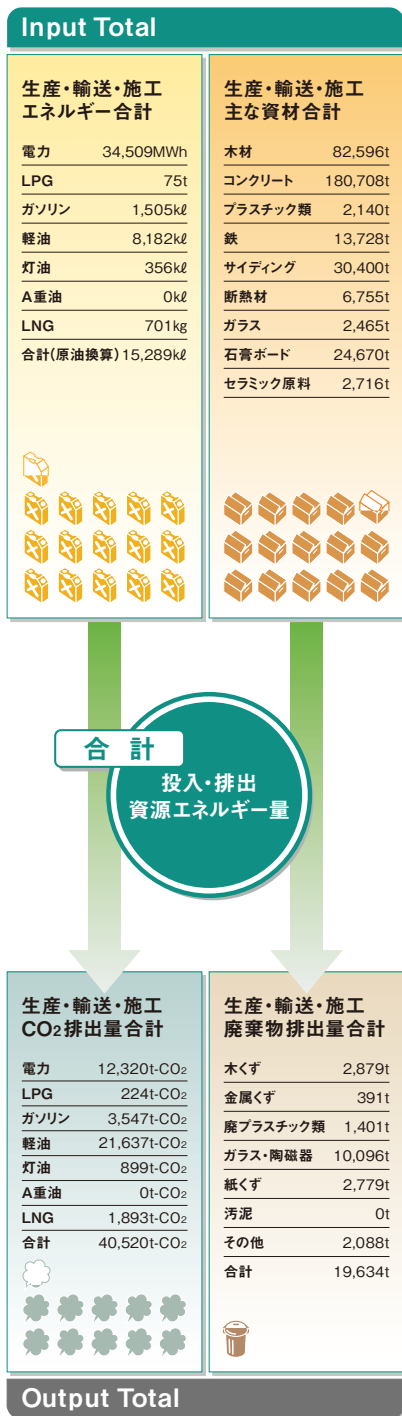


【算出根拠】

※CO₂排出量:各種エネルギーからCO₂への換算は社団法人プレハブ建築協会「エコアクション21」のCO₂排出量原単位による
(LNGのCO₂換算係数については地球温暖化対策推進法による)

■工場生産	資材、エネルギー、 廃棄物、CO ₂ 排出量	木質工場11、木質部品工場3 セラミック工場1 計15工場の合計
■輸送	エネルギー	車輻(軽油)分(総走行距離×燃費)、輸送基地分の合計
■施工現場	電気	使用電力量(kWh/日・棟)×平均工期×施工棟数
	軽油	建機移動時(ℓ/h)×燃費(ℓ/棟)×施工棟数 建機平均移動距離(km/棟)×燃費(km/ℓ)×施工棟数

■施工現場	ガソリン	平均職人投入数(人/棟)×平均移動距離(km/棟)×施工棟数
	廃棄物	自社調査による平均廃棄物排出量×施工棟数
■居住	CO ₂ 排出量	1世帯あたりのCO ₂ 排出量(3,669kg-CO ₂)×施工棟数 [平成21年度版 環境白書][国勢調査]データに基づき推計
■解体	廃棄物	「住宅・土地統計調査」「木造建築物解体工事の現場」(社団法人 全国解体工事業団体連合会)データに基づき推計
■処理・再生	M-Wood2製造	M-Wood2製造工場4工場の製造能力の合計

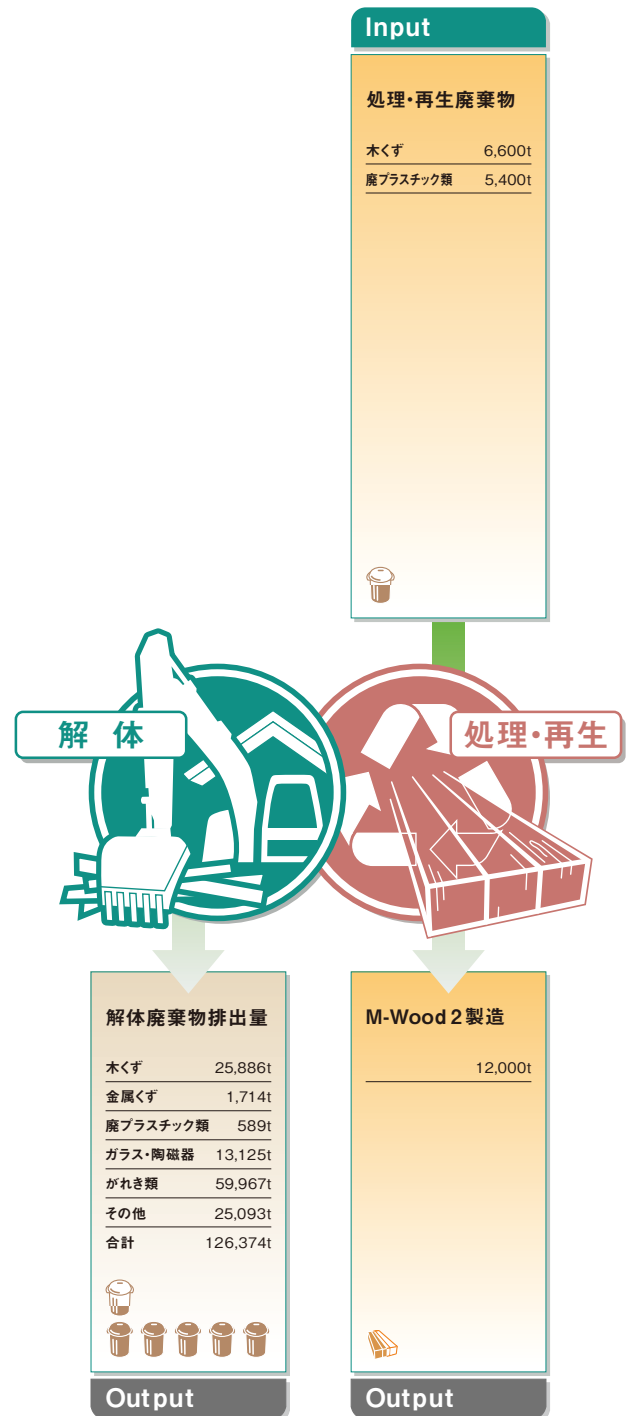
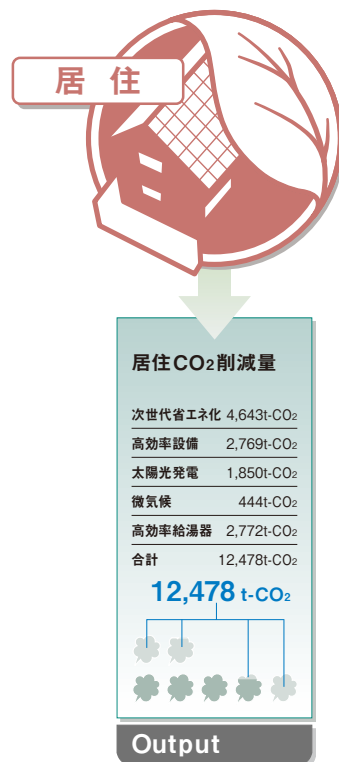


【年間居住段階CO₂削減】

12,478 t-CO₂

ミサワホームが2009年度に販売した住まいにおいて、太陽光発電システム、熱交換型24時間フロアセントラル換気システムの導入や、IHクッキングヒーター、エコキュート、エコジョーズなどの高効率・省エネルギー機器を利用した環境配慮設計により、年間居住段階約27,446t-CO₂のうち12,478t-CO₂を削減できた計算となります。

参考:一般廃棄物排出量1,629kg(4人家族)
(1,061kg/世帯)(平成21年度版 環境白書、
国勢調査) CO₂排出量5,635kg-CO₂(4人家族)
(3,669kg-CO₂/世帯)(平成21年度版 環境
白書、国勢調査)





2009年度環境活動の実績と自己評価

ミサワホームでは環境マネジメントシステムのもと、さまざまな環境活動を展開しています。

「SUSTAINABLE 2010」(2006～2010年度)に基づき、環境目標達成に向けて環境目標を年度ごとに掲げています。

このページでは、ミサワホームの環境活動をカテゴリー別に2009年度の環境目標に対する実績と自己評価を掲載しています。

CO₂削減

環 境 目 的	項 目 別 目 標		目 標 と 実 績	自 己 評 価
	項 目	目 標		
CO ₂ 排出量を 2010年度までに1990年度 (4,251kg-CO ₂ /棟・年) 比20%削減する。	棟当たりCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /棟・年)			 PV補助金制度の復活や商品仕様の向上などで、2008年度より181(kg-CO ₂ /棟・年)削減。2009年度目標値も達成。今後も全社をあげてCO ₂ 排出量の削減に取り組み、最終年度の目標達成に努めます。
	居住段階 エネルギー	次世代省 エネルギー 基準対応住宅 の普及率(%)		 2008年度比で3ポイント改善し、2009年度目標を達成しました。今後も次世代省エネルギー基準対応住宅の普及を推進します。
		太陽光発電 システム搭載 住宅の 普及率(%)		 2008年度、PV補助金制度利用等により19.8ポイント改善し、2009年度目標を達成しました。今後商品の仕様の標準化を進め、CO ₂ の削減に努めていきます。
		高効率 給湯器の 普及率(%)		 2008年度比で3.4ポイント改善し、2009年度目標を達成しました。今後も企画商品への標準化、品揃えの充実化により、高効率給湯器の普及に努めていきます。
		高効率設備 機器の採用 によるCO ₂ 排出量の削減 (kg-CO ₂ /棟)		 2008年度より14(kg-CO ₂ /棟・年)悪化し、2009年度目標も未達でした。今後も高効率設備機器の企画商品への標準化に取り組み、CO ₂ の削減に努めていきます。

自己評価基準 環境行動計画における目標を気象の天気表示にして3段階で表現しました。

☀️ 2008年度実績よりも改善し、2009年度目標も達成。 ☁️ 2008年度実績よりも改善しましたが、2009年度目標は未達。
2008年度実績よりも悪化しましたが、2009年度目標は達成。 🌧️ 2008年度実績よりも悪化し、2009年度目標も未達。

CO2削減／資源有効活用

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価
	項目	目標		
CO2排出量を 2010年度までに1990年度 (4,251kg-CO2/棟・年) 比20%削減する。	工場生産 エネルギー	棟当たり (木質・セラミック) 排出量 (kg-CO2/棟) バーコード当り (木質部品) 排出量 (kg-CO2/BCL枚)	2006年: 1,036 (Target), 1,014 (Wood actual), 1,032 (Ceramic actual), 1,020 (Wood parts actual) 2007年: 1,032 (Target), 1,023 (Wood actual), 1,028 (Ceramic actual), 1,024 (Wood parts actual) 2008年: 1,028 (Target), 997 (Wood actual), 1,024 (Ceramic actual), 1,003 (Wood parts actual) 2009年: 1,024 (Target), 1,003 (Wood actual), 1,020 (Ceramic actual), 1,020 (Wood parts actual) 2010年: 1,020 (Target), 1,020 (Wood actual), 1,020 (Ceramic actual), 1,020 (Wood parts actual)	 木質 セラミック 木質部品 木質工場、セラミック工場及び木質部品工場全てにおいて、2009年度CO2排出量は目標値を達成しております。
	輸送 エネルギー	棟当たり 排出量 (%)	2006年: 99 (Target), 93.8 (Wood residential actual), 92.5 (Ceramic residential actual) 2007年: 92.5 (Target), 96.8 (Wood residential actual), 92 (Ceramic residential actual) 2008年: 92 (Target), 99.2 (Wood residential actual), 91 (Ceramic residential actual) 2009年: 91 (Target), 101 (Wood residential actual), 90.5 (Ceramic residential actual) 2010年: 90 (Target), 90.5 (Wood residential actual), 90.5 (Ceramic residential actual)	 木質系住宅 セラミック系住宅 セラミック系住宅においては、2008年度より削減し、目標を達成。木質系住宅については、積込基準の改定など減速に取り組みましたが、工場の再編等により排出量が増加し、目標は未達に終わりました。今後もより一層「リグ」STOPの徹底や積込基準の見直し等による削減に努めていきます。
	事務所 エネルギー	事務所活動 に伴うCO2 排出量 (t-CO2)	2006年: 1,339 (Target), 1,289 (Actual) 2007年: 1,443 (Target), 1,429 (Actual) 2008年: 1,335 (Target), 1,356 (Actual) 2009年: 1,313 (Target), 1,342 (Actual) 2010年: 1,342 (Target), 1,342 (Actual) ※2007年度はベンチマーク変更に伴い目標設定なし	 環境配慮を考慮したレイアウト及び照明器具配置の最適化等を行い、2009年度目標値を達成しました。今後も事務所活動における省エネ活動について全社を挙げて推進していきます。
環境配慮素材の 活用や、建物の 長寿命化・長期耐久性 を促進する。	リサイクル 素材の活用	M-Wood M-Wood2 使用量 (%)	2006年: 100 (Target), 90.5 (M-Wood actual), 100 (M-Wood2 actual) 2007年: 100 (Target), 90 (M-Wood actual), 100 (M-Wood2 actual) 2008年: 100 (Target), 53 (M-Wood actual), 100 (M-Wood2 actual) 2009年: 100 (Target), 68 (M-Wood actual), 100 (M-Wood2 actual) 2010年: 100 (Target), 100 (M-Wood actual), 100 (M-Wood2 actual) ※2005年度比	 M-Wood M-Wood2 M-Woodにおいては、企画商品のシェア向上により前年度より改善傾向にあります。2009年度目標値に対して未達となりました。M-Wood2においては、OEM及び海外需要等の増加により、2009年度目標を達成しました。
	グリーン購入 量の推進	事務用品の グリーン購入 比率 (%)	2006年: 60 (Target), 54 (Actual) 2007年: 60 (Target), 56 (Actual) 2008年: 65 (Target), 34 (Actual) 2009年: 40 (Target), 42 (Actual) 2010年: 50 (Target), 50 (Actual)	 2007年度の事務用品の一括管理を行なった為、目標値を見直しました。グリーン購入品目の追加等により、2008年度より増加し、2009年度目標達成しました。今後も継続してグリーン購入の推進に努めます。

2009年度環境活動の目標と実績

自己評価基準 環境行動計画における目標を気象の天気表示にして3段階で表現しました。

☀️ | 2008年度実績よりも改善し、2009年度目標も達成。 ☁️ | 2008年度実績よりも改善しましたが、2009年度目標は未達。 🌧️ | 2008年度実績よりも悪化しましたが、2009年度目標は達成。 🌩️ | 2008年度実績よりも悪化し、2009年度目標も未達。

ゼロ・エミッション/健康配慮/企業活動

環境目的	項目別目標		目標と実績	自己評価
	項目	目標		
2010年度までに 工場・現場における ゼロ・エミッション化 を達成する。	工場生産 活動における 廃棄物削減	工場生産から 排出される 廃棄物の リサイクル率(%)		工場生産から排出される廃棄物のリサイクル率100%であるゼロエミッション化を2008年度達成し、2009年度はゼロエミッション更新審査を定期的に行い維持管理に努めました。今後は、リサイクルの内容の改善を図るよう努力します。
	現場生産 活動における 廃棄物削減	新築現場から 発生する 廃棄物排出量 (%)		木質系住宅 セラミック系住宅 内装床材や軒天の割付などによる現場余材材の削減に取り組みましたが、2009年度の目標は未達でした。今後も継続して資源循環センターからの分析等によるゼロ・エミッション活動に取り組みます。
	事務所活動 における 廃棄物削減	事務所系 廃棄物 排出量(t)		各事務所において社内EMS活動の1つである廃棄物の削減に取り組み、2009年度目標値を達成しました。今後もより一層削減する活動に取り組みます。
健康に配慮した 住宅を供給する。	有害化学 物質対策	工場生産段階 における鉛・ ジクロロメタン 使用量(%)		工場生産段階における鉛の削減は計画通り使用を全廃しました。ジクロロメタンについては目標を達成しており、引き続き削減活動に取り組みます。
人と自然が共生し、 資産価値の高い まちづくりを促進する。	環境共生	環境に配慮 したまちづくり の推進	①まちなみガイドライン普及活動:ツール類整備(まちづくりマニュアル作成) ②設計支援:超長期モデル事業の推進 「オナズヒル 西鳩ヶ谷」 「オナズガーデン 榎原神宮」 大規模分譲開発「リファージュ高坂」「オナズヒル 北高森」 ③「省CO₂モデル事業の推進(森林公園駅セカンドステージ他)」	



地球環境と共に

ミサワホームグループは、企業活動そのものが環境保全活動となるよう努力します。

CO2削減 ミサワホームの企業活動によるCO2排出量を、2010年度までに1990年度比20%削減することをめざしています。

地域に合わせた高断熱・高気密設計 WEB

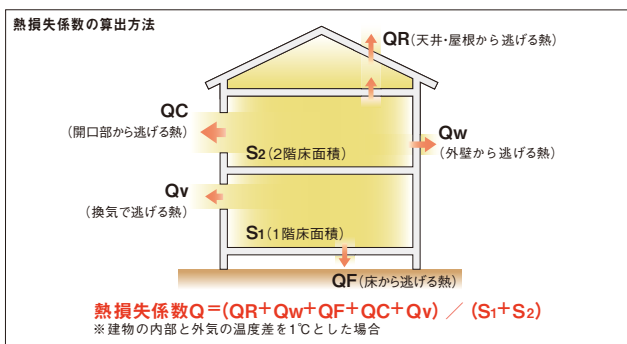
「次世代省エネルギー基準」は、1999年に告示された住宅の省エネルギー性能の公的基準。断熱性を表す「熱損失係数(Q値)」や「熱貫流率(U値)」といった数値基準が設けられています。ミサワホームの住まいは、この次世代省エネルギー基準を上回る性能を標準仕様で実現しています。

■木質系住宅における断熱仕様 WEB

品質管理の行き届いた工場で高精度に生産される木質パネルの断熱材には、軽量で、裁断しても崩れない不燃のグラスウールを使用し、工場生産の段階でパネル内部にムラなく充填されます。外壁パネル、1階床パネル、屋根パネルそれぞれに地域の要求性能に応じた十分な厚みの断熱材を採用しています。

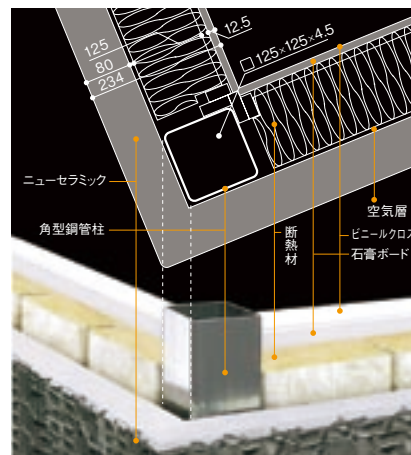


木質パネルへの断熱材充填



■ハイブリッド系住宅における断熱仕様 WEB

ハイブリッド住宅のニューセラミック外壁は80mmの厚みがあり、外壁材として建物を覆うことで、そのまま「外断熱」として機能します。さらに断熱材(グラスウール)や石膏ボード、空気層などとともに、厚さ234mmの複層構造の壁体を構成。この複層壁が夏涼しく冬暖かい、抜群の省エネルギー効果を発揮し、さらに住まいを傷める原因となる結露も抑え、いつも心地よい快適な室内環境をお届けします。



複層断熱構造の断面(イメージ)

ゼロ・エネルギー住宅の実現 WEB

ミサワホームは会社創立以来、住宅による地球環境問題への対応を重要テーマと位置づけ、常に先進的な研究開発に取り組んできました。1971年の「省エネルギー研究チーム」発足以来、省エネルギー住宅の開発を本格化。時代の先端を行く技術改良を重ね、1998年には世界初のゼロ・エネルギー住宅を発売しました。省エネルギーの住まいに、太陽光発電による創エネルギー技術を組み合わせ、居住段階のエネルギー収支をゼロとすることで、「CO2ゼロ」の住宅をいち早く実現したのです。



ゼロ・エネルギー住宅 HYBRID-Z



次世代ゼロエネルギー住宅

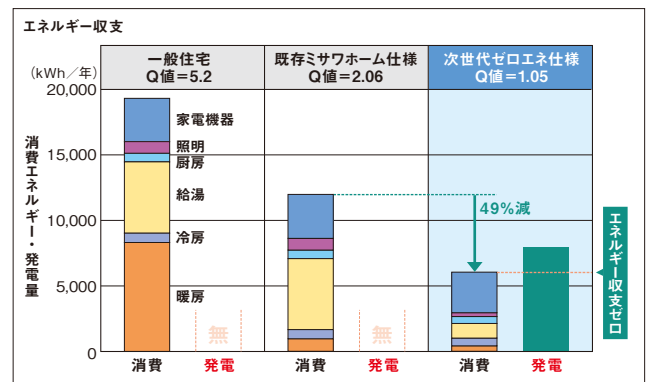


生活時のエネルギーやCO₂だけでなく、住宅建設時に消費するエネルギーや環境負荷まで回収できる「次世代ゼロエネルギー住宅」の試行棟を北海道旭川市と三重県亀山市に建設しま



2009年に建設された「次世代ゼロエネルギー住宅」試行棟(三重県・亀山市)

した。消費エネルギーを上回る太陽光発電によってライフサイクルエネルギー(CO₂)収支ゼロを実現しています。



家庭用燃料電池によるW発電

ミサワホームでは太陽光発電システムだけでなく、ガスから水素を取り出して、空気中の酸素と化学反応させて電気や熱を生み出す家庭用燃料電池(エネファーム)も積極的に採用しています。太陽光発電システムと合わせて利用すれば、

W発電の住まいになり、CO₂の削減効果がさらに高まります。



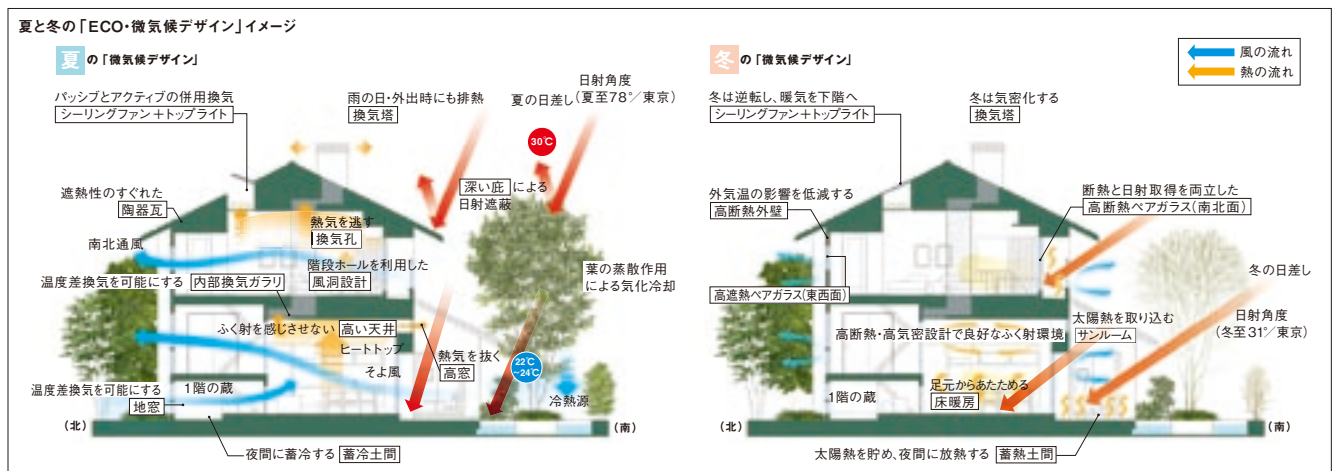
エネファーム

ECO・微気候デザイン



ミサワホームは、先人の知恵と先端の技術を融合させて住まいを設計することを微気候デザインと名付けました。微気候とは、住まいとその周辺に限った局地的な気候のことです。建物の

設計や植物に影響を受けるため、温度も湿度も風も、広範囲の気象や気候とは微妙に異なります。この微気候をいかし、「夏も冬も旨とする住まい」をつくるのが微気候デザインです。



「エコロジーな住まい」を実現するエコリフォーム

住まいは今や以前のようにスクラップ&ビルドではなくストックの時代に入りました。今ある住まいをECOリフォームで「省エネ仕様」にして住まい続ける。それが地球温暖化にストップをかける有効な手段となります。ミサワホームではリフォームにおいても「ECO」をテーマにさまざまなメニューをご用意。高品質・高性能なリフォームで地球環境への負荷を低減する「暮らしながらエコロジーな住まい」を実現します。また、リフォーム後のCO₂排出量や光熱費削減効果を算出する、ミサワホームオリジナルのシミュレーションソフトを開発。経済性、環境貢献度をアピールし、



お客様の環境意識を高めていただくツールとして活用しています。

全国の工場でもさまざまな省エネルギー施策を推進

ミサワホームの全国の工場では、生産効率の向上を図ると同時に、省エネルギーにつながるさまざまな施策を積極的に実施。たとえば岡山工場では、バイオマス廃棄物熱利用システムや太陽光発電システムを導入。生産過程で発生する木粉・木屑を自動回収し、サーマルリサイクルシステムによって木材廃棄物をいっさい排出せず、事務所照明電力を100%自給できます。また、全国の工場に電力供給している電力会社と協力し、省エネルギーを推進しています。



松本工場



工場内部

「エコレールマーク」の企業認定

ミサワホームでは、物流の効率化を図るべく、『モーダルシフト』という言葉が使われ始める前から鉄道貨物やフェリーを利用していました。現在、500km以上の長距離輸送に鉄道貨物やフェリーを利用し、輸送ロスのない効率的な物流を実現させています。500km以上の輸送におけるモーダルシフト化率は40%です。この結果CO₂排出量の少ない鉄道輸送に積極的に取り組む企業として、2006年「エコレールマーク」の認定も受けています。



資材の長距離輸送にはJRコンテナを活用



事務所活動における省エネルギー

ミサワホームでは、事務所内における電気、ガス、水道使用量削減への取り組みを継続的に行っています。政府が推進する国民運動「チャレンジ25」に参加し、省エネ機器の積極的導入や、昼休みの一斉消灯の呼びかけ、照明配置の見直し、

OA機器の電源を積極的にOFFにするなど電気を節約。また、地球温暖化防止への身近な取り組みとして、クールビズ推進運動にも早くから参加しています。



資源の有効活用

地球資源を有効活用する新素材の発明や、環境に配慮した木材使用を推進しています。

リサイクル素材「M-Wood」



木材を大量に使用する住宅には、森林資源の保全への配慮が欠かせません。ミサワホームでは、木材の使用を最小限に抑える「省資源」、「代替材の開発」、「リサイクル」という3大テーマのもと、工場で生産できる新しいリサイクル素材「M-Wood」を開発。木を製材するときに出る端材などを再利用してつくられ、色合いや肌ざわりも天然の木そのものでありながら、耐久性、耐水性など天然木の弱点を克服し、高品質・高均性を実現しました。



M-Wood



サッシ枠にも「M-Wood」を利用

100%リサイクル素材「M-Wood2」



木材以外の素材のリサイクルもめざして、100%リサイクル素材「M-Wood2」を開発しました。工場や施工現場から出る木質系廃材と、容器包装材などの廃プラスチックを再利用しています。日光や風雨にさらされても劣化しにくく、メンテナンス性にすぐれ長期間使用できます。このような特長をもつ「M-Wood2」はデッキ、パーゴラなど、住宅のエクステリア部材としてだけでなく、2005年の愛知万博デッキや各種屋上緑化施設など、環境を重視する大型プロジェクトにも採用されています。



「M-Wood2」が使用されたエビスグリーンガーデン



M-Wood2

環境配慮素材「ニューセラミック外壁」



ミサワホームは「無から有を生みだした」といえる新素材ニューセラミック外壁を開発・採用しています。地球上に無尽蔵といわれる珪石と石灰石が主原料。国内にある豊富な資源を、技術のチカラで価値ある素材に生まれ変わらせたのです。それは木、コンクリートに続く第3の建材であり、ひとつの素材で実現した多機能素材。さらには環境負荷を抑えつつ安定供給を可能にしたエコマテリアルでもあります。



80mm厚の「PALC外壁」

環境先進国フィンランドからの木材調達

WEB 

フィンランドは、森林が減少しないように年間の伐採量を生長量以下に制限している環境先進国。「ミサワホーム・フィンランド工場」では、伐採した木をまるごとムダなく活用するシステムを構築しています。1本の丸太から製材だけでなく、製材過程で発生する樹皮などは隣接する火力発電所の燃料に、木片はパルプの原料に利用するなど100%使用し、森林資源の有効活用に努めています。こうした取り組みにより、フィンランド工場は2006年、国際的な森林認証プログラムPEFC-CoC認証を取得しました。

※PEFC: Programme for the Endorsement of Forest Certification schemes



ミサワホーム・フィンランド工場



PEFC-CoC認証書



中国では環境負荷の少ない積層合板を生産

中国のミサワホーム工場では、住宅の間柱や調整材などに用いるLVL(単板積層材)の生産拠点として、JAS認定を取得。工場内の木材乾燥工程などの熱源には廃材を再利用し、排煙も浄化処理してから排出するなど、環境にも配慮しています。



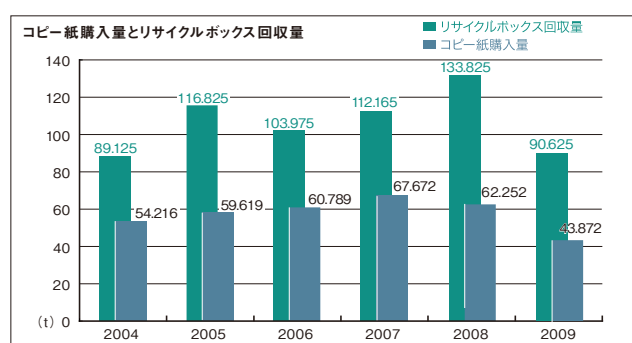
中国・臨沂(リンイ)のミサワホーム工場



製造工程

事務所活動における省資源への取り組み

ミサワホームでは、1997年から現在に至るまで、ペーパーレス化と同時に使用した紙の再利用に努めてきました。使用済み用紙は、個人用の「パーソナルボックス」と部全体で使用する「リサイクルボックス」を設置。2009年度のリサイクルボックス回収量は90,625kgで、これは直径14cm・高さ8mの原木1,813本を保全した計算です。今までの13年間に事務所活動で再資源化した使用済み用紙総量は、累計で約1,110t。これは森林面積に換算すると、222,088㎡で東京ドーム約4.8個分相当となります。





ゼロ・エミッション 関東エリアの1都7県を対象に、「広域認定制度」の認定を取得しました。

独自のガイドに基づく廃棄物の適正処理



ミサワホームでは業界団体のガイドライン等を参考に独自のガイドを作成。新築現場より発生する廃棄物処理に関する「建設廃棄物適正処理ガイド」や、「廃棄物適正処理ガイド(工場版)」

を随時改訂し、さらに最新の情報を全国のディーラーや工場にWeb上で発信しています。

工場におけるゼロ・エミッション

ミサワホームでは、環境5ヵ年計画「SUSTAINABLE 2010」に基づいて生産工場や施工現場から排出される産業廃棄物の削減に取り組んでいます。2007年には全生産工程から排出される廃棄物の埋め立て及び単純焼却を行わず、リサイクル率100%としたゼロ・エミッションを達成し、維持継続しています。



施工現場におけるゼロ・エミッションを可能にした「関東資源循環センター」



「SUSTAINABLE 2010」で掲げる新築現場のゼロ・エミッション達成に向けて、関東エリアの1都7県を対象とした「広域認定制度」の認定を2009年3月に取得し、これに基づき千葉県野田市に「関東資源循環センター」を建設、稼働させています。「広域認定制度」とは、複数の都道府県にまたがり、産業廃棄物を回収、処理することを許可される廃棄物処理法の特例制度で、廃棄物の広域処理に関して一定の基準に達して

いることを条件として、環境大臣により認定されるものです。



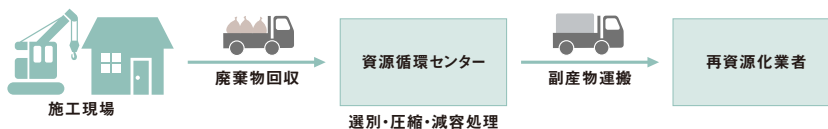
関東資源循環センター



QRコードの読み取り作業(段ボール)

「広域認定制度」を利用した廃棄物処理ルート

①資源循環センターを拠点とした直接回収の処理体制



②集荷拠点を経由した処理体制



「関東資源循環センター」の概要

- ・センター所在地／千葉県野田市はやま1-5
- ・センター面積／約2,900㎡(878坪)
- ・敷地面積／25,580㎡(7,738坪)
- ・廃棄物処理能力／年間3,500棟
- ・廃棄物処理内容／新築施工現場で10品目に分別された廃棄物をさらに選別、圧縮、減容
- ・分別品目数／ダンボール、プラスチック類、石膏ボードなど約30品目

サイトレポート
ミサワホームは、生産工場の環境基準の遵守、環境負荷の把握を徹底しています。

有害化学物質削減の推進

ミサワホームでは新規の部品部材のうち、接着剤・塗料などの製品安全データを基に独自のデータベース化をPRTR法の施行に合わせて構築し、現在も法改正等に合わせシステムの集計精度を高める取り組みを続けています。

PRTR調査結果（2009年度分全体集計）

化学物質	毒性ランク	用途	総取扱量(トン)	排出量・移動量(トン)				消費(トン)	リサイクル(トン)
				大気	水質	土壌	移動(廃棄物)		
キシレン	第1種	塗料 他	52.36	51.84	0.00	0.00	0.52	0.00	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン)＝ジイソシアネート	第2種	塗料	15.97	6.39	0.00	0.00	0.16	9.42	0.00
グリオキサール	第1種	接着剤原材料	15.39	0.00	0.00	0.00	0.09	15.30	0.00
トルエン	第1種	塗料 他	12.92	12.79	0.00	0.00	0.13	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	第1種	塗料可塑剤	9.50	0.00	0.00	0.00	0.86	8.64	0.00
エチルベンゼン	第1種	塗料 他	7.02	6.95	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00
ジクロロメタン	第1種	ラッピング用接着剤	6.05	5.99	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	第1種	塗料・接着剤	4.41	0.00	0.00	0.00	0.04	4.37	0.00
酢酸2-エトキシエチル	第1種	造作材用塗料	4.33	4.29	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00
フタル酸ジ-n-ブチル	第1種	塗料可塑剤	0.31	0.28	0.00	0.00	0.01	0.02	0.00
ノニルフェノール	第1種	刃物洗浄剤 塗料	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.27	0.00
フェノール	第1種	役物接着剤	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00
ヒドラジン	第1種	ボイラー清缶剤	0.08	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00
アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	第1種	接着剤可塑剤	0.07	0.00	0.00	0.00	0.01	0.06	0.00
ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル	第1種	塗料界面活性剤	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	第1種	外壁材塗料	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
エチレングリコール	第1種	工場床塗料	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
合計			128.89	88.54	0.08	0.00	1.99	38.28	0.00
ダイオキシン類	特定1種	焼却炉	4.42※	4.12※	0.00	0.00	0.30※	0.00	0.00

※単位:mg-TEQ

全国生産工場の環境パフォーマンス



ミサワホームでは環境情報公開の一環として、全国にある15カ所の生産工場における原油換算のエネルギー使用量や廃棄物総発生量、再資源化率、化学物質の移動量や排出量などのパフォーマンスデータを定期的に調査、公表しています。

工場名	省エネルギー(地球温暖化防止)		リサイクル 再資源化量(トン)	PRTR(トン)					
	原油換算(キロリットル)	t-CO ₂		総取扱量	大気	水質	土壌	移動(廃棄物)	消費
ミサワホーム岩手工場	328	473	164	1.52	0.06	0.00	0.00	0.02	1.44
ミサワホーム松本工場	701	985	270	2.85	0.14	0.00	0.00	0.03	2.68
ミサワホーム沼田工場	1,166	1,666	459	11.19	0.24	0.00	0.00	0.05	10.90
ミサワホーム静岡工場	246	349	400	0.32	0.04	0.00	0.00	0.00	0.28
ミサワホーム岡山工場	899	1,270	466	5.88	0.42	0.00	0.00	0.06	5.40
ミサワホーム福岡工場	544	779	258	2.36	0.12	0.00	0.00	0.02	2.22
ミサワホーム札幌工場	474	901	572	2.23	0.05	0.00	0.00	0.02	2.16
ミサワホーム山梨工場	335	493	61	1.73	0.00	0.06	0.00	0.02	1.65
ミサワホーム磯原工場	204	287	140	1.85	0.60	0.00	0.00	0.02	1.23
ミサワホーム福井工場	184	307	67	1.12	0.25	0.00	0.00	0.01	0.86
ミサワホーム島根工場	124	185	66	0.64	0.01	0.02	0.00	0.01	0.60
ミサワホーム梓川工場※1	1,578	2,255	268	11.05	1.49	0.00	0.00	0.87	8.69
ミサワホーム富山工場※1	130	194	272	0.08	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00
ミサワホーム胸ヶ根工場※1	113	162	118	3.91	3.87	0.00	0.00	0.04	0.00
ミサワホーム名古屋工場※2	2,138	3,544	2,593	82.16	81.17	0.00	0.00	0.82	0.17

※1 木質部品工場 ※2 セラミック工場



環境コミュニケーション ミサワホームの環境活動をより多くの方々にご理解いただけるよう努めています。

ミサワオーナーの森 宮城



地域の取り組みとして、東北ミサワホームでは宮城県から県有林約5ヘクタールを無償で借り受け、ネーミングライツを導入。CSR活動のひとつと位置づけた環境貢献を行っています。この「MISAWAオーナーの森 宮城」ではミサワホーム社員とその家族がボランティアで間伐や下草刈り、遊歩道整備やベンチ設置を実施。ミサワホーム・オーナーの皆さま、ご家族の憩いの場として、また親子で参加できる楽しい体験型イベントの会

場としての活用などを考えています。さらに記念植樹なども行い、小さなレベルながら日本の森を守る活動拠点としての活用を続けてまいります。



社員・家族による森林整備活動

フィンランド工場の植林活動

ミサワホーム・フィンランド工場は、ミサワホームにとって重要な木材の調達・加工拠点です。フィンランド工場は、今年5月に創業以来フィンランドの資源を活用させていただいている感謝の意を込めて「森の日」と銘打ち、スプラスの苗7,000本の植林活動を実施いたしました。順調に木が生育すれば、70年後に丸太とし

て利用できるようになります。フィンランド工場は、今後も、大切な資源を次の世代に受け継いでいく活動を行っていきます。



フィンランド工場の職員

ボルネオ支援ベンダー取組み

現在マレーシア国ボルネオ島では熱帯雨林が年々減少しており、サバ州キナバタンガン川流域に棲息するオランウータンやボルネオゾウなどの野生生物の生態系が大きく崩れようとしています。「世界三大生態系」のひとつであるボルネオの生態系を保護する運動の「ボルネオへの恩返しプロジェクト」に賛同・支援

するため、寄付機能付自動販売機をグループ事務所などに設置しました。今後も事務所などへ展開していく予定です。



寄付機能付自動販売機

環境活動の歩み 業界をリードする環境活動をつぎつぎと展開しています。



ミサワホームは創立以来、省エネルギー住宅の開発に取り組み、1974年にエコ・エネルギーシステム計画を発表。1981年にはゼロ・エネルギー構想を打ち出し研究開発に着手。1998年、ついに世界初となるゼロ・エネルギー住宅の商品化に成功しました。その後も地球資源を有効利用した新しいリサイクル素材

「M-Wood」や「M-Wood2」の発明など、常に業界をリードする環境活動を次々と展開しています。



環境実験室

ミサワホームグループネットワーク



ミサワホーム株式会社（東証、大証、名証各1部）03-3345-1111

住宅事業

本質 デザイナー	【北海道】	
	ミサワホーム北海道 (北海道)	011-822-1111
	【東北】	
	東北ミサワホーム (青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)	022-724-3301
	ミサワホーム庄司 (福島)	0244-24-1818
	堀江ミサワホーム (福島)	0246-21-3385
	【関東甲信越】	
	ミサワホーム下館 (茨城)	0296-28-3911
	栃木ミサワホーム (栃木)	028-610-0330
	上信ミサワホーム (群馬)	0274-64-1385
	ミサワホーム西関東 (群馬・埼玉)	048-855-5711
	ミサワホーム東関東 (茨城・千葉)	043-309-3111
	ミサワホーム館山 (千葉)	0470-23-1040
	旭ミサワホーム (千葉)	0479-63-7633
	ミサワホーム東京 (東京・神奈川)	03-5344-6811
	ミサワホーム多摩 (東京)	042-527-3383
	湘南ミサワホーム (神奈川県)	0466-33-6666
	ミサワホーム信越 (新潟・長野)	025-232-3330
	ミサワホーム上越 (新潟)	025-521-0330
	ミサワホーム佐渡 (新潟)	0259-57-3142
	ミサワホーム山梨 (山梨)	055-228-6565
	ミサワホーム東長野 (長野)	0267-68-4411
	【北陸】	
	北陸ミサワホーム (富山・石川・福井)	076-222-1558
	ミサワホーム富山 (富山)	076-433-4411
	【東海】	
	ミサワホーム静岡 (静岡)	054-257-1111
	ミサワホーム東海 (岐阜・愛知・三重)	052-782-2131
	【近畿】	
	ミサワホーム近畿 (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)	06-6341-1301
	ミサワホーム杉橋 (滋賀)	0740-22-3750
	和歌山ミサワホーム (和歌山)	073-436-6233
	ミサワホーム高階 (兵庫)	0794-82-0017
	【四国】	
	ミサワホーム四国 (徳島・香川・愛媛・高知)	087-868-4711
	ミサワホーム小豆島 (香川)	0879-62-0289
	【中国】	
	ミサワホーム中国 (JASDAQ) (鳥取・島根・岡山・広島・山口)	082-291-1301
	ミサワホーム中原組 (山口)	0837-22-0008

【九州】

ミサワホーム九州 (福岡・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)	092-431-3390
ミサワホーム佐賀 (佐賀)	0952-23-7141
ミサワホーム別府 (大分)	0977-22-3380

セラミック デザイナー

【東北】

ミサワセラミックホーム仙台 (宮城)	022-284-6011
【関東甲信越】	
ミサワセラミックホーム栃木 (栃木)	028-610-0330
ミサワホーム西関東セラミック (群馬・埼玉)	048-855-5761
ミサワホーム東関東セラミック (茨城・千葉)	043-309-2115
ミサワホームセラミック (埼玉・東京・神奈川)	03-3247-8300
ミサワセラミックホーム信越 (新潟・長野)	025-232-3380
ミサワホーム山梨セラミック (山梨)	055-228-6565

【北陸】

北陸ミサワホームセラミック (石川)	076-222-1558
-----------------------	--------------

【東海】

ミサワホームセラミック (愛知・岐阜・静岡)	052-856-3330
ミサワホーム静岡セラミック (静岡)	054-257-1125
ミサワホーム東海セラミック (岐阜・愛知・三重)	052-782-2131
ミサワホームセラミック遊 (愛知)	052-322-4611
ミサワセラミックホーム三重 (三重)	0598-51-5515

【近畿】

ミサワホームセラミック (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)	072-631-3330
ミサワホーム近畿セラミック (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)	06-6341-1301
ミサワセラミックホーム和歌山 (和歌山)	073-436-6255

【四国】

ミサワホーム四国セラミック (徳島・香川・愛媛・高知)	087-868-0330
--------------------------------	--------------

【中国】

ミサワセラミックホーム中国 (鳥取・島根・岡山・広島・山口)	086-245-1212
ミサワセラミックホーム新山口 (山口)	0833-71-6666

【九州】

ミサワホーム九州セラミック (福岡・長崎・熊本・大分・宮崎)	092-431-3390
ミサワセラミックホーム佐賀 (佐賀)	0952-23-7141
ミサワセラミックホーム鹿児島 (鹿児島)	099-250-0338

ホーム インク デザイナー

【北海道】

ミサワホームインク北海道 (北海道 道央)	011-846-0140
ミサワホームインク北海道NA (北海道 道北)	0166-39-2500

【東北】

ミサワホームインク東北 (青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)	022-239-7115
------------------------------------	--------------

【関東甲信越】

ミサワホームインク栃木 (栃木)	028-610-9364
ミサワホームインク (東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・群馬)	03-5344-7510
ミサワホームインク多摩 (東京)	042-527-3387
ミサワホームインク湘南 (神奈川県)	0466-34-1591
ミサワホームインク新潟 (新潟)	025-232-3340
ミサワホームインク山梨 (山梨)	055-268-7750
ミサワホームインク長野 (長野)	0263-24-0330

【北陸】

ミサワホームインク北陸 (富山・石川・福井)	076-233-3323
ミサワホームインク富山 (富山)	076-433-4412

【東海】

ミサワホームインク静岡 (静岡)	054-257-1152
ミサワホームインク東海 (岐阜・愛知・三重)	052-789-1717

【近畿】

ミサワホームインク近畿 (滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良)	06-6450-3330
ミサワホームインク和歌山 (和歌山)	073-436-6233

【四国】

ミサワホームインク四国 (徳島・香川・愛媛・高知)	087-867-4888
------------------------------	--------------

【中国】

ミサワホームインク中国 (鳥取・島根・岡山・広島・山口)	086-245-0400
---------------------------------	--------------

【九州】

ミサワホームインク九州 (福岡・長崎・熊本・大分・鹿児島)	092-441-7466
ミサワホームインク佐賀 (佐賀)	0952-23-7141
ミサワセラミックホームインク鹿児島 (鹿児島)	099-250-0338

【セラミック】

ミサワホームインクセラミック (東京・静岡・愛知・滋賀・大阪)	03-3247-8300
------------------------------------	--------------

関連会社

ミサワホーム総合研究所	03-3247-5644
ミサワエクステリア	03-5929-1851
ミサワエムアルディー	03-3345-7990
メディアエムジー	03-5339-8500
マザアス	04-7176-8711
ミサワテクノ	0263-58-2100
CSロジスティクス	03-5306-4710
【海外】	
ミサワホームズオブフィンランド	
臨沂三澤木業有限公司	2010年5月現在

【本書をご覧になる際、以下の注意事項をご確認ください】 本書にはミサワホーム株式会社の知的財産、ノウハウが含まれているところがあります。本書の内容を本来の目的以外に使用することや、当社の許可なくして複製・転載することはご遠慮ください。

商品の詳しい内容や住まいづくりのご相談・お問い合わせは、お近くのミサワホームへ。

www.misawa.co.jp

ミサワホーム株式会社

〒163-0833 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

MISAWA

発行部署 ミサワホーム株式会社
建設推進部 環境推進グループ 経営企画部 広報・IRグループ

〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号

お問い合わせ先 TEL:03-3349-8088 FAX:03-5381-7838 E-Mail:kankyo@misawa.co.jp

www.misawa.co.jp/csr/

2010.6 発行